



2010/2011シーズン  
**OPERA** オペラ



**新国立劇場**

2010年1月

## | Contents |

オペラ芸術参与(次期オペラ芸術監督予定者)尾高忠明 …	2
<hr/>	
2010/2011シーズン オペラ ラインアップ ……………	3
アラベッタ <b>新制作</b> ……………	4
フィガロの結婚 ……………	9
アンドレア・シェニエ ……………	14
トリスタンとイゾルデ <b>新制作</b> ……………	19
夕鶴 ……………	23
椿姫 ……………	28
マノン・レスコー <b>新制作</b> ……………	33
ばらの騎士 ……………	38
コジ・ファン・トゥッテ <b>新制作</b> ……………	43
蝶々夫人 ……………	47
<hr/>	
平成22年度公演 ……………	52
平成22年度 新国立劇場 高校生のためのオペラ鑑賞教室 カルメン ……………	53
平成22年度 新国立劇場 高校生のためのオペラ鑑賞教室・関西公演 蝶々夫人 ……………	56
<hr/>	
公演一覧(1997.10～2010.6) ……………	59

## 2010/2011 シーズン オペラ



オペラ芸術参与  
(次期オペラ芸術監督予定者)

### 尾高忠明

私の愛するウィーンの、例えようもない素敵なストーリーの『アラベッラ』がオープニングですが、森英恵さんの衣裳など、今からワクワクしています。また、大野、広上、高関の3人の日本人指揮者、そしてアルミンクという、今最もエネルギッシュに活躍する指揮者たちは新国立劇場に、新たな風を起こしてくれると確信しています。

皆様のご来場を心待ちにしております、と同時に大いにお楽しみいただければ幸いです。

#### (プロフィール)

1947年鎌倉生まれ。桐朋学園大学で齊藤秀雄氏に指揮法を師事したほか、作曲、理論、ホルンを学んだ。70年桐朋学園大学を卒業、第2回民音指揮者コンクールで第2位に入賞。71年にNHK交響楽団を指揮してデビュー。72年オーストリア政府から奨学金を得てウィーン国立アカデミーに留学、ハンス・スワロフスキーに師事、さらにオペラをシュパンナーゲルに学んだ。

74年～91年東京フィルハーモニー交響楽団常任指揮者、81年～86年札幌交響楽団正指揮者、92年～98年読売日本交響楽団常任指揮者を務めた。84、89年東京フィル、93、97年には読売日響のヨーロッパ公演を成功に導いた。87年にBBCウェールズ交響楽団首席指揮者に就任、翌年には同団を率いてロンドン・プロムスにデビューした。英国内はもとよりヨーロッパ各地、ロシア、そして2度の日本公演と北米公演を行い好評を博す。ロンドン・サンデー・タイムズ紙は、「オーケストラとの8年間、彼はウェールズで奇跡を行った」と書いている。96年からは桂冠指揮者となり、引き続き数多くの指揮を行っている。

95年には紀尾井シンフォニエッタ東京のミュージカル・アドバイザー／首席指揮者に就任、2000年には同団初のヨーロッパ・ツアーを敢行、オランダ、オーストリア各地で絶賛された。また1998年には札幌交響楽団ミュージック・アドバイザー／常任指揮者に就任、2001年10月、英国ツアーをロンドン、バーミンガム、エディンバラほかで全7公演、音楽監督就任後の05年9月には韓国公演を行い絶賛を博した。

その他、国内主要オーケストラへの定期的な客演に加え、ロンドン交響楽団、ロンドン・フィル、BBC交響楽団、バーミンガム市交響楽団、ハレ管弦楽団、ボーンマス交響楽団、ヘルシンキ・フィル、ロッテルダム・フィル、ストラスブルク・フィル、バンベルク交響楽団、ワルシャワフィル、オスロ交響楽団、ベルゲンフィル、メルボルン交響楽団、シドニー交響楽団、オレゴン交響楽団、香港フィル等世界各地のオーケストラへ客演している。

オペラの分野では、1977年の二期会公演『フィデリオ』をはじめ、80年代には同じく二期会による『こうもり』『トスカ』『タンホイザー』、関西二期会『カルメン』『魔弾の射手』、民音オペラ『蝶々夫人』、91年に英国のウェールズ・ナショナル・オペラ『サロメ』、98年には読売日本交響楽団でコンサート形式『ピーター・グライムズ』など数多くの公演を指揮している。2008年9月には札幌交響楽団とコンサート形式の『ピーター・グライムズ』を指揮、各方面から高い評価を得た。

また武満徹、細川俊夫、松村禎三、三善晃など日本人作曲家の作品の初演も数多く手掛けている。レコーディングにも精力的で、これまでBBCウェールズ響等とNimbus、BIS、CHANDOS、カメラータ・トウキョウなどに数多くの優れた録音を残している。近年ではBBCウェールズ交響楽団と録音した武満作品集、グラズノフの交響曲全集、07年札幌交響楽団とのドヴォルザーク：交響曲第8番／第9番、08年同団とのエルガー：交響曲第3番／行進曲「威風堂々」第6番（ペイン補完）のアルバムはいずれも高い評価を得ている。1991年度第23回サントリー音楽賞受賞。93年ウェールズ音楽演劇大学より名誉会員の称号を、ウェールズ大学より名誉博士号を、97年英国エリザベス女王より大英勲章CBEを授与された。さらに99年には英国エルガー協会より、エルガー音楽の普及に貢献したとして、日本人初のエルガー・メダルを授与されている。

現在、NHK交響楽団正指揮者(2010年1月～)、札幌交響楽団音楽監督(2004年5月～)、BBCウェールズ交響楽団(現BBCウェールズ・ナショナル管弦楽団)桂冠指揮者(1996年1月～)、メルボルン交響楽団首席客演指揮者(2010年1月～)、東京フィルハーモニー交響楽団桂冠指揮者(1991年4月～)、読売日本交響楽団名誉客演指揮者(1998年4月～)、紀尾井シンフォニエッタ東京桂冠名誉指揮者(2003年9月～)を務める。2008年9月からは新国立劇場オペラ芸術参与を、2009年9月からは同オペラ芸術監督代行を務めている。また東京芸術大学指揮科主任教授、相愛大学音楽学部客員教授として後進の指導に当たっている。

■ 芸術監督任期(予定)：平成22(2010)年9月1日～平成25(2013)年8月31日

## 2010/2011シーズン オペラ ラインアップ

〈新制作4演目/レパートリー6演目 合計10演目50公演〉

2010.10

### アラベッラ **新制作**

Arabella | R. シュトラウス

6回公演

2010.10

### フィガロの結婚

Le Nozze di Figaro | W.A. モーツァルト

4回公演

2010.11

### アンドレア・シェニエ

Andrea Chénier | U. ジョルダノ

5回公演

2010.12-2011.1

### トリスタンとイゾルデ **新制作**

Tristan und Isolde | R. ワグナー

5回公演

2011.2

### 夕鶴

YUZURU | 團 伊玖磨

3回公演

2011.2

### 椿姫

La Traviata | G. ヴェルディ

5回公演

2011.3

### マノン・レスコー **新制作**

Manon Lescaut | G. プッチーニ

6回公演

2011.4

### ばらの騎士

Der Rosenkavalier | R. シュトラウス

6回公演

2011.5-6

### コジ・ファン・トゥッテ **新制作**

Così fan tutte | W.A. モーツァルト

5回公演

2011.6

### 蝶々夫人

Madama Butterfly | G. プッチーニ

5回公演

# アラベツラ

## Arabella

オペラパレス | 6回公演 | 全3幕〈ドイツ語上演／字幕付〉

初演：1933年7月1日 ドレスデン・ザクセン国立歌劇場（ゼンパー・オーパー）

作曲：リヒャルト・シュトラウス Richard Strauss (1864-1949)

台本：フーゴー・フォン・ホフマンスタール Hugo von Hofmannsthal

### 演目選定にあたって

新国立劇場が新芸術監督のもとシーズン開幕公演として上演するのは、指揮者としても名高く、数々の名作オペラを世に遺したりヒャルト・シュトラウス『アラベツラ』です。『ばらの騎士』や『サロメ』が一般的には有名ですが、この作品の素晴らしさは、主役から脇役に至るまで、音の中にきめ細やかに込められた心情描写にあるといえます。ウィーンを舞台に繰り広げられるこの恋愛物語は、音楽的に超絶技巧を要するため、歌手は演技、歌唱ともに高いテクニックを求められます。色彩豊かなオーケストラにも期待が高まります。

ウィーンで『アラベツラ』と言えば、必ず笑顔がこぼれる作品。どうぞご期待ください。

### 作品解説

リヒャルト・シュトラウスとホフマンスタールの名コンビによる最後の作品。1860年代のウィーンを舞台に繰り広げられるこの恋愛物語は、ストーリー、音楽ともに贅を尽くした名作です。

性格は全く異なるアラベツラとズデンカの美しい姉妹の恋心を中心にストーリーが展開します。姉のアラベツラは、没落したとはいえウィーンの貴族の娘として気位が高く、自分にふさわしい理想の男性の出現を夢見ます。一方、妹のズデンカは、家の経済的理由から男の子として育てられましたが、愛する男性には直情的に行動をおこす乙女心を胸に秘めています。リヒャルト・シュトラウスの官能的な音楽はこのコントラストを、実に雄弁に語っています。第1幕のモノローグ〈私のエレメル〉、第2幕の二重唱〈そしてあなたは主人になり〉など、優雅に香りつつウィーンの恋物語に、美しく冴え渡る音楽が随所にちりばめられています。

副題に“叙情的喜劇”と銘打たれたこの魅力的なオペラは、歌手に非常に高度なテクニックを要する等、さまざまな要因から日本国内での上演機会に恵まれませんでした。新国立劇場では1998年9月日本初の国内プロダクションとして上演（指揮：若杉弘、演出：鈴木敬介）。日本初演でもあった1988年バイエルン州立歌劇場（指揮：サヴァリッシュ）の来日公演以来、待望の上演となったこのプロダクションは、日本オペラの実力を示し、高く評価されました。今回の新制作は、新国立劇場オペラ『ホフマン物語』、『アンドレア・シェニエ』で幻想と現実を鮮やかに視覚化したフィリップ・アルローの演出です。指揮は、2003年の『フィガロの結婚』や『エレクトラ』でいずれも好評を博したウルフ・シルマー。衣裳は世界的ファッション・デザイナー森英恵が新国立劇場初登場となります。タイトルロールは、アラベツラ役で定評のあるミヒャエラ・カウネ。2009年11月『ヴォツェック』タイトルロールで好評を博したトーマス・ヨハネス・マイヤーのマンドリカ役での再登場など、歌手陣にもご期待ください。



## あらすじ

19世紀末のウィーン。退役騎兵隊大尉のヴァルトナー伯爵は、現実をわきまえない贅沢暮らしに加え賭け事を好み、破産寸前である。伯爵には年頃の美しい2人の娘、長女のアラベツラと妹のズデンカがいたが、2人の娘を社交界にデビューさせるだけの経済力がなく、次女をズデンコという男名前呼び、男装させている。アラベツラは気品のある美女で、求婚者が後を絶たないが、長女を玉の輿に乗せ経済的窮状から脱却しようと目論む両親の望むような裕福な男は現われない。士官のマッテオも、熱烈に想いを寄せていたが完全なる片思いだった。このマッテオに恋心を抱く姉思いのズデンカは、マッテオのためにキューピット役を務めてしまう。そこへ裕福な大地主マンドリカが現われ、多額の結納金を持参して求婚する。アラベツラもマンドリカに一目惚れする。謝肉祭の最後の夜の舞踏会に現われたアラベツラにプロポーズするマンドリカ。マッテオは惹かれあう2人を前に絶望する。ズデンカは、愛するマッテオの傷を癒そうと、姉の部屋の鍵だと偽って自分の部屋の鍵を渡す。しかし、その現場をマンドリカが立ち聞きしアラベツラへの疑念にかられ、事態はあっという間に收拾不可能に。ズデンカは全て自分が仕組んだことだと告白する。誤解と秘密は解け、ズデンカはマッテオと、アラベツラはマンドリカと結ばれ、ハッピーエンドとなる。

R. シュトラウス

## アラベツラ

Arabella / Richard Strauss

全3幕〈ドイツ語上演／字幕付〉

指揮……………	ウルフ・シルマー
Conductor	Ulf Schirmer
演出・美術・照明……………	フィリップ・アルロー
Production, Scenery, Lighting Design	Philippe Arlaud
衣裳……………	森 英恵
Costume Design	Mori Hanae
ヴァルトナー伯爵……………	妻屋秀和
Graf Waldner	Tsumaya Hidekazu
アデライデ……………	竹本節子
Adelaide	Takemoto Setsuko
アラベツラ……………	ミハエラ・カウネ
Arabella	Michaela Kaune
ズデンカ……………	アグネーテ・ムンク・ラスムッセン
Zdenka	Agnete Munk Rasmussen
マンドリカ……………	トーマス・ヨハネス・マイヤー
Mandryka	Thomas Johannes Mayer
マッテオ……………	オリヴァー・リングェルハーン
Matteo	Oliver Ringelhahn
エレメル伯爵……………	望月哲也
Graf Elemer	Mochizuki Tetsuya
ドミニク伯爵……………	萩原 潤
Graf Dominik	Hagiwara Jun
ラモラル伯爵……………	初鹿野 剛
Graf Lamoral	Hatsukano Takeshi
フィアッカミッリ……………	天羽明恵
Die Fiaker-Milli	Amou Akie
カルタ占い……………	与田朝子
Eine Kartenaufschlägerin	Yoda Asako
合唱……………	新国立劇場合唱団
Chorus	New National Theatre Chorus
管弦楽……………	東京フィルハーモニー交響楽団
Orchestra	Tokyo Philharmonic Orchestra

2010.10/2 (土) 2:00 10/11 (月・祝) 2:00

10/5 (火) 3:00 10/14 (木) 6:00

10/8 (金) 6:00 10/17 (日) 2:00

オペラパレス

【チケット料金(税込)】

S : 26,250円・A : 21,000円・B : 14,700円・C : 8,400円・D : 5,250円

【前売開始】2010.6/5 (土)

# アラベツラ

Arabella / Richard Strauss

指揮：ウルフ・シルマー

Conductor : Ulf Schirmer

ドイツのエッセンハウゼン生まれ。ハンブルク音楽大学でホルスト・シュタイン、クリストフ・フォン・ドホナーニ、ジェルジ・リゲティの各氏に師事。

ウィーン国立歌劇場、ミラノ・スカラ座、パリ・オペラ座、ベルリン・ドイツ・オペラ、ザルツブルク音楽祭、ブレゲンツ音楽祭などで指揮。2009年8月より、ライプツィヒ歌劇場の音楽監督を務めている。

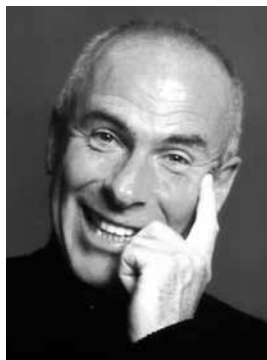
オペラのみならず、オペレッタ、映画音楽など幅広いレパートリーを持ち、世界各地の著名なオーケストラの指揮で活躍。ハンブルク演劇アカデミーで、音楽分析と音楽ドラマトゥルギーを教えている。新国立劇場には03年『フィガロの結婚』、04年『エレクトラ』、07年『西部の娘』に続き4度目の登場となる。



演出・美術・照明：フィリップ・アルロー

Production, Scenery, Lighting Design : Philippe Arlaud

パリ生まれ。ストラスブール国立劇場演劇大学で演出、舞台美術、美術史を学ぶ。これまでにパリ・オペラ座、ウィーン国立歌劇場、ミラノ・スカラ座、ベルリン・ドイツ・オペラ、マリンスキー劇場といった世界の一流歌劇場や、ブレゲンツ、スポレートなどの音楽祭で『ドン・ジョヴァンニ』『チェネレントラ』『トリスタンとイゾルデ』『影のない女』『ルサルカ』などの演出、舞台美術、照明を手がける。2002年から07年までバイロイト音楽祭で『タンホイザー』を演出。新国立劇場では03年『ホフマン物語』演出・美術・照明を担当。“光の魔術師”の異名にたがわぬ鮮烈な視覚効果で、作品の幻想性を浮き彫りにした。05年『アンドレア・シェニエ』に続く3作目の新演出。



衣裳：森 英恵

Costume Design : Mori Hanae

島根県出身。1950年から60年代にわたって多くの日本映画衣裳を担当。65年ニューヨークで初の海外コレクションを発表、77年からパリ・オートクチュール組合に属する唯一の東洋人として活動を展開した。オペラやバレエ、創作能、新作歌舞伎などの舞台衣裳も手がける。現在は「森英恵ファッション文化財団」を設立し、若手の育成にも力を注ぐ。朝日賞、紫綬褒章、東京都文化賞、文化勲章、レジオン・ドヌール勲章オフィシエ、毎日ファッション大賞特別賞など。著書に「ファッション一蝶は国境をこえる」「HANA MORI STYLE」など。東京女子大卒。新国立劇場初登場。





# アラベッラ

Arabella / Richard Strauss

## アラベッラ：ミヒャエラ・カウネ

Arabella : Michaela Kaune

ハンブルク生まれ。1997年よりベルリン・ドイツ・オペラに所属。ザクセン州立歌劇場、パリ・オペラ座、バイエルン州立歌劇場、ザルツブルク音楽祭、バイロイト音楽祭などに出演。『カルメン』ミカエラ、『魔弾の射手』アガテ、『フィガロの結婚』伯爵夫人、『ニュルンベルクのマイスタージンガー』エーファ、『アラベッラ』タイトルロール、『ルサルカ』タイトルロール、『ばらの騎士』元帥夫人などを歌っている。今後は、バイロイト音楽祭でエーファ、ベルリン・ドイツ・オペラで元帥夫人、『オテロ』デズデーモナなど、バイエルン州立歌劇場とウィーン国立歌劇場で『こうもり』ロザリンデ、ジュネーヴ歌劇場で『ワルキューレ』ジークリンデなどに出演予定。新国立劇場初登場。



## ズデンカ：アグネーテ・ムンク・ラスムッセン

Zdenka : Agnete Munk Rasmussen

コペンハーゲン生まれ。同市の王立音楽アカデミーに学ぶ。これまでにザクセン州立歌劇場、バイエルン州立歌劇場、ベルリン・コーミッシェ・オーパーの他、シュトゥットガルト、ライプツィヒなどに出演。『ばらの騎士』ゾフィー、『アラベッラ』ズデンカ、『ナクソス島のアリアドネ』ツェルビネッタ、『魔笛』夜の女王、『ラインの黄金』ヴォークリンデ、『こうもり』アデーレ、『ラ・ボエーム』ムゼッタなどを歌っている。2009/2010シーズンは、デンマークのオーフスで『椿姫』ヴィオレッタのロールデビュー、デンマーク王立歌劇場で『魔笛』夜の女王を予定している。新国立劇場初登場。

## マンドリカ：トーマス・ヨハネス・マイヤー

Mandryka : Thomas Johannes Mayer

ドイツ生まれ。ケルン音楽大学で声楽をリゼロッテ・ハンメスとクルト・モルに師事。ミラノ・スカラ座、バイエルン州立歌劇場、パリ・オペラ座、ハンブルク州立歌劇場、ベルリン・ドイツ・オペラ、ベルリン・コーミッシェ・オーパー、ブレゲンツ音楽祭などに出演。『ワルキューレ』ヴォータン、『ジークフリート』さすらい人、『ドン・ジョヴァンニ』と『ヴォツェック』のタイトルロール、『ドン・カルロ』ロドリゴ、『アラベッラ』マンドリカ、『サロメ』ヨハナン、『魔弾の射手』カスパーンなどを歌っている。今後は、パリ・オペラ座『ワルキューレ』ヴォータン、2010年ザルツブルク音楽祭『ルル』猛獣使いなどを予定。09年に新国立劇場に『ヴォツェック』タイトルロールで登場、大好評を博す。



## マッテオ：オリヴァー・リングェルハーン

Matteo : Oliver Ringelhahn

オーストリア生まれ。ウィーン音楽大学に学ぶ。これまでにザクセン州立歌劇場、ハンブルク州立歌劇場、ザルツブルク音楽祭、ルツェルン音楽祭、ウィーン・フォルクスオーパー、アン・デア・ウィーン劇場などに出演。『アラベッラ』マッテオ、『ニュルンベルクのマイスタージンガー』ダーヴィット、『フィデリオ』ヤッキーノ、『こうもり』アルフレード、『ヴォツェック』アンドレス、『魔笛』モノスタトス、『ばらの騎士』ヴァルツァッキ、『ナクソス島のアリアドネ』舞踏教師などを歌っている。2010年にはネザーランド・オペラ『さまよえるオランダ人』舵手出演予定。新国立劇場初登場。

# フィガロの結婚

## Le Nozze di Figaro

オペラパレス | 4回公演 | 全4幕 〈イタリア語上演／字幕付〉

初演：1786年5月1日 ウィーン・ブルク劇場

作曲：ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト Wolfgang Amadeus Mozart (1756-1791)

台本：ロレンツォ・ダ・ポンテ Lorenzo da Ponte

### 演目選定にあたって

オペラを語る上で、神童モーツァルトは絶対不可欠であり、その代表作である『フィガロの結婚』は欠くことができません。この作品は2003年ノヴォラツスキー芸術監督就任第1作としてプレミエを迎えたプロダクションで、段ボールが散乱した箱状の真っ白な空間をモノトーンの衣裳をつけた歌手たちが動きまわるアンドレアス・ホモキの演出は、モーツァルトがこの作品の中で歴史上具体的な関係ではなく、人類の普遍的な問題について問いかけていることに注目し、秩序の崩壊というコンセプトを打ち出しました。ドラマが進行するにつれ、この“非歴史的”舞台空間は徐々に壊れ、歌手たちが身につけている社会的地位の差を表わす衣裳もなくなって、社会的因習を排除したピュアな人間性を生き生きと描き出しています。アンサンブルの演技は、細部にまで裏付けられた構成で、オペラファンに限らず演劇ファンにも楽しめる完成度の高い舞台の誕生だと、広く話題を巻き起こしました。

### 作品解説

世界中のオペラハウスで上演され続けているモーツァルト不朽の名作。フランス革命時代の作家ポーマルシェによる政治風刺劇3部作の中の第2話を原作としたオペラで、第1作目はロッシーニ『セビリアの理髪師』に、第3作目はミヨー『罪ある母』と、それぞれオペラ作品に姿を変えています。台本は、モーツァルトとの共同作業で名高いダ・ポンテの手によるもので、この名コンビによる『フィガロの結婚』『ドン・ジョヴァンニ』『コジ・ファン・トゥッテ』はモーツァルト作品の中でも傑作といわれています。原作の内容が、当時の貴族の腐敗ぶりを才智ある庶民がやり込めるという風刺劇だったために、上演許可取得の可否が危ぶまれましたが、世渡り上手のダ・ポンテが皇帝ヨーゼフ2世に巧みに働きかけ、1786年ウィーンで初演。モーツァルト自身がチェンバロを弾きながら指揮をし、アンコールのために上演時間が倍になるほどの成功を収め、その後のプラハ公演では爆発的ヒットとなりました。舞台上では貴族から庶民まで様々な階層の人物が次々と登場し、当時の芝居の三単一の法則にしたがって、丁丁発止の人間模様が1日の出来事として描かれています。聴き所も枚挙にいとまがなく、喜劇にいざなう軽快な序曲にはじまり、ケルビーノのアリア〈自分で自分がわからない〉〈恋とはどんなものかしら〉、フィガロのアリア〈もう飛ぶまいぞ、この蝶々〉、伯爵夫人の絶唱〈楽しい思い出はどこへ〉や、第2幕と第4幕のフィナーレを飾るアンサンブルも圧巻です。

### あらすじ

もとは理髪師で今はアルマヴィーヴァ伯爵の召使いフィガロは、伯爵夫人の小間使いスザンナと今日結婚式を挙げることになっている。初夜権(宮廷の主人は、その召使いの結婚の際花婿に代わって初夜を共にできるという権利)をひとたび放棄したもののスザンナに気がある伯爵はその復活を企んでいる。一方、伯爵夫人は、夫の冷めゆく愛を嘆いている。そこで夫人、フィガロ、スザンナが結託して伯爵の鼻を明かそうと企む。恋する思春期の小姓ケルビーノをスザンナの衣裳で女装させて伯爵をおびき出そうとするが失敗。一方、フィガロに横恋慕の女中頭マルチェリーナはフィガロに借金返済が無理なら自分と結婚するよう強要し裁判となるが、フィガロがマルチェリーナの子であることが発覚。一転して喜びの再会となる。次に夫人とスザンナはお互い衣裳を換えて、伯爵の浮気現場をおさえようと画策。事情を知らないフィガロはこれに一時混乱するが直ぐに理解し解決する。伯爵はまんまと引っかかり、夫人に平謝りして全員喜びの大団円となる。



2007年公演より

W.A. モーツァルト

# フィガロの結婚

Le Nozze di Figaro / Wolfgang Amadeus Mozart

全4幕〈イタリア語上演／字幕付〉

指揮……………	ミヒャエル・ギュットラー
Conductor	Michael Güttler
演出……………	アンドレアス・ホモキ
Production	Andreas Homoki
美術……………	フランク・フィリップ・シュレスマン
Scenery Design	Frank Philipp Schlössmann
衣裳……………	メヒトヒルト・ザイペル
Costume Design	Mechthild Seipel
照明……………	フランク・エヴァン
Lighting Design	Franck Evin
アルマヴィーヴァ伯爵……………	ロレンツォ・レガッツォ
Il Conte Almaviva	Lorenzo Regazzo
伯爵夫人……………	ミルト・パパタナシュ
La Contessa	Myrtò Papatanasu
フィガロ……………	アレクサンダー・ヴィノグラードフ
Figaro	Alexander Vinogradov
スザンナ……………	エレナ・ゴルシュノヴァ
Susanna	Elena Gorshunova
ケルビーノ……………	ミヒャエラ・ゼーリンガー
Cherubino	Michaela Selinger
マルチェッリーナ……………	森山京子
Marcellina	Moriyama Kyoko
バルトロ……………	佐藤泰弘
Bartolo	Sato Yasuhiro
バジリオ……………	大野光彦
Basilio	Ono Mitsuhiko
ドン・クルツィオ……………	加茂下 稔
Don Curzio	Kamoshita Minoru
アントーニオ……………	志村文彦
Antonio	Shimura Fumihiko
バルバリーナ……………	九嶋香奈枝
Barbarina	Kushima Kanae
合唱……………	新国立劇場合唱団
Chorus	New National Theatre Chorus
管弦楽……………	東京フィルハーモニー交響楽団
Orchestra	Tokyo Philharmonic Orchestra

2010.10/10 (日) 2:00 10/16 (土) 2:00

10/13 (水) 2:00 10/19 (火) 6:30

オペラパレス

【チケット料金(税込)】

S : 21,000円・A : 15,750円・B : 10,500円・C : 6,300円・D : 3,150円

【前売開始】2010.6/12 (土)

# フィガロの結婚

Le Nozze di Figaro / Wolfgang Amadeus Mozart

指揮：ミヒヤエル・ギュットラー

Conductor : Michael Güttler

ドレスデン生まれ。ヴァイオリン、トランペット、ピアノおよび合唱指揮を学んだ後、カール・マリア・フォン・ウェーバー音楽大学で指揮を学ぶ。数多くの指揮者コンクールで優勝。パリ・オペラ座、ベルリン・ドイツ・オペラ、フェニーチェ歌劇場などで活躍。2002年よりマリンスキー劇場の常任客演指揮者。楽劇「ニーベルングの指環」「トリスタンとイゾルデ」「アイダ」「椿姫」「フィガロの結婚」「ドン・ジョヴァンニ」「ルチア」など幅広いレパートリーを誇る。今後の予定としては、ハンブルク州立歌劇場で『カヴァレリア・ルスティカーナ』と『道化師』、パリ・シャンゼリゼ劇場で『チェネレントラ』、などがある。10年には『リゴレット』と『セビリアの理髪師』でウィーン国立歌劇場にデビュー予定。その後、同歌劇場で『ナブッコ』も予定されている。新国立劇場初登場。



演出：アンドレアス・ホモキ

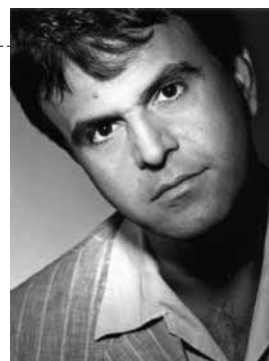
Production : Andreas Homoki

ドイツのマール生まれ。1987年から92年までケルン歌劇場でアシスタント・ディレクターを務める。ジュネーヴ歌劇場1992/1993シーズン開幕の『影のない女』の演出で大成功を収める。その後、ハンブルク州立歌劇場『リゴレット』、デンマーク王立歌劇場『ドン・ジョヴァンニ』、バーゼル歌劇場『エレクトラ』、ネザーランド・オペラ『ルル』などヨーロッパを中心に活躍。2002/2003シーズンからベルリン・コミッシェ・オーパーの首席演出家に就任し、『フィレンツェの悲劇』『金鶏』などを取り上げ話題となった。新国立劇場では03年『フィガロの結婚』、07年『西部の娘』を演出した。

アルマヴィーヴァ伯爵：ロレンツォ・レガッツォ

Il Conte Almaviva : Lorenzo Regazzo

ヴェネツィア生まれ。これまでにウィーン国立歌劇場、バイエルン州立歌劇場、ミラノ・スカラ座、パリ・オペラ座、ベルリン州立歌劇場、ザルツブルク音楽祭、ロッシェニ・オペラ・フェスティバルなどに出演。モーツァルトとロッシェニを得意とし、『コジ・ファン・トゥッテ』『ドン・アルフォンソ』、『ドン・ジョヴァンニ』レボレット、『アルジェのイタリヤ女』ムスタファ、『チェネレントラ』アリドーロなどで好評を博している。今後、バイエルン州立歌劇場で『イタリヤのトルコ人』『コジ・ファン・トゥッテ』、ベルリン・ドイツ・オペラで『チェネレントラ』、英国ロイヤルオペラで『ドン・ジョヴァンニ』、メトロポリタン歌劇場で『オリー伯爵』などに出演予定。新国立劇場には2007年『フィガロの結婚』に出演。



伯爵夫人：ミルト・パパタナシユ

La Contessa : Myrto Papatnasiu

ギリシャのラリサ生まれ。テッサロニーキ音楽大学卒業後、ミラノで研鑽を積む。これまでにバイエルン州立歌劇場、モネ劇場、ローマ歌劇場、アン・デア・ウィーン劇場、ボローニャ歌劇場などに出演。『ドン・ジョヴァンニ』ドンナ・アンナ、『コジ・ファン・トゥッテ』フィオルディリージ、『フィガロの結婚』伯爵夫人、『後宮からの誘拐』コンスタンツェ、『椿姫』ヴィオレッタ、『道化師』ネッダなどをレパートリーとする。今後、ローマ歌劇場とダラス・オペラで『椿姫』、ベルリン州立歌劇場とネザーランド・オペラで『フィガロの結婚』などが予定されている。2011年には『ドン・ジョヴァンニ』ドンナ・アンナでウィーン国立歌劇場にデビュー予定。新国立劇場初登場。

# フィガロの結婚

Le Nozze di Figaro / Wolfgang Amadeus Mozart

フィガロ: アレクサンダー・ヴィノグラドフ

Figaro : Alexander Vinogradov

1976年モスクワ生まれ。物理と数学を学んだ後にモスクワ音楽院で学ぶ。数多くのコンクールで優勝。弱冠21歳でボリショイ劇場デビュー。以来ベルリン州立歌劇場、パリ・オペラ座、フェニーチェ歌劇場、ラヴィニア音楽祭などに出演。『ドン・ジョヴァンニ』レポレッコ、『魔笛』ザラストロ、『セビリアの理髪師』ドン・バジリオ、『イタリアのトルコ人』セリム、『カルメン』エスカミーリョ、『アイーダ』ランフィス、『ラ・ボエーム』コッリーネ、『三つのオレンジへの恋』チェリオ、『エレクトラ』オレストなどをレパートリーとする。今後の予定としては、英国ロイヤルオペラで『皇帝の花嫁』、ベルリン州立歌劇場でドン・バジリオとエスカミーリョ、ミラノ・スカラ座でエスカミーリョなどがある。新国立劇場には2007年『カルメン』エスカミーリョで出演している。



スザンナ: エレナ・ゴルシュノヴァ

Susanna : Elena Gorshunova

ロシアのベルミ生まれ。モスクワのグネーシン音楽アカデミーで声楽を学ぶ。2002年よりマリインスキー劇場のソリストとして数多くの作品に出演。他にもワシントン・オペラ、マドリッドのレアル劇場、カナダのケベック・オペラなどに登場。『リゴレット』ジルダ、『ファルスタッフ』ナンネッタ、『魔笛』パミーナ、『フィガロの結婚』スザンナ、『後宮からの誘拐』コンスタンツェ、『コジ・ファン・トゥッテ』デスピーナ、『カルメン』フラスキータ、『ばらの騎士』ゾフィー、『ラ・ボエーム』ムゼッタなどをレパートリーとする。2010/2011シーズンより、ザクセン州立歌劇場の専属歌手として、ジルダ、コンスタンツェ、パミーナなどを歌う予定。新国立劇場初登場。



ケルビーノ: ミヒャエラ・ゼーリンガー

Cherubino : Michaela Selinger

オーストリア出身、ウィーンで声楽を学ぶ。2005/2006シーズンよりウィーン国立歌劇場の専属歌手として活躍。他にもチューリッヒ歌劇場、ザルツブルク音楽祭のほか、ベルンやエッセンでも出演。『フィガロの結婚』ケルビーノ、『セビリアの理髪師』ロジーナ、『ナクソス島のアリアドネ』作曲家、『ニュルンベルクのマイスタージンガー』マグダレーネ、『こうもり』オルロフスキー公爵などを歌っている。今後の予定としてはウィーン国立歌劇場で『ばらの騎士』オクタヴィアン、ケルビーノ、リヨン歌劇場で『ヘンゼルとグレーテル』ヘンゼル、ザルツブルク音楽祭、グラインドボーン音楽祭などがある。新国立劇場初登場。



# アンドレア・シェニエ

Andrea Chénier

オペラパレス | 5回公演 | 全4幕〈イタリア語上演／字幕付〉

初演：1896年3月28日 ミラノ・スカラ座

作曲：ウンベルト・ジョルダノ Umberto Giordano (1867-1948)

台本：ルイーヂ・イリカ Luigi Illica

## 演目選定にあたって

イタリアのオペラ作曲家ジョルダノによるヴェリズモ・オペラの代表作ですが、上演機会がきわめて少ない作品です。2005年11月のプレミエは日本国内上演史上、3つ目のプロダクションとなりました。パリ生まれパリ育ちのフィリップ・アルローは、フランス革命期のパリを舞台にした作品の演出にあたり、登場人物たちの心にはぐくまれる《愛》で物語を進行させつつ、混乱状態の中で命を落とした多くの人々の存在を舞台上に視覚化することに成功しました。ギロチンで区切られた各幕の舞台は、世相を象徴する絵画がイメージ素材となっています。第1幕はロココ時代のフラゴナール、第2幕はドラクロワの「民衆を率いる自由の女神」、第3幕はゴヤの暗く重いイメージ、第4幕にはロマン主義絵画を代表するカスパル・ダーヴィト・フリードリッヒの世界が展開します。暴力が暴力を生む歴史の連鎖を断ち切る可能性について、現代を生きる私たちに問いかけているのです。パリ生まれの指揮者フレデリック・シャスランによる流麗な音楽づくりにもご期待ください。

## 作品解説

ジョルダノがオペラ作曲家としての名声を確立した最高傑作。フランス革命期に生き、断頭台の露と消えた詩人アンドレア・シェニエと伯爵令嬢マッドレーナの崇高な愛、そして伯爵家従僕から革命政府中堅リーダーとなったジェラルルのマッドレーナへの愛と革命への忠誠心のせめぎ合いが、ドラマティックに描かれています。愛の尊さを説くシェニエの〈ある日藍色の空を〉、理想と情欲のあいだで逡巡する自己を自嘲するジェラルルの〈祖国の敵〉といったスケールの大きい名アリアや、永遠の愛を誓ったシェニエとマッドレーナが死出の旅立ちの前に歌う迫力の二重唱、さらに〈ラ・マルセイエーズ〉など動乱の革命を伝える楽曲が挿入され、聴き所満載です。歌手に要求される技術的難易度の高さもあって、名作でありながら上演の機会がきわめて少なく、日本初演は1961年イタリア歌劇団来日公演、その後1994年の藤原歌劇団公演を経て新国立劇場プロダクション(2005年)が貴重な上演となりました。



## あらすじ

1789年のパリ郊外。コワニー伯爵邸の夜会で、伯爵令嬢マッドレーナは無口な詩人シェニエが披露した愛の崇高さと憂国の情を情熱的に歌った即興詩に感動する。一方、マッドレーナに思いを寄せる伯爵家の従僕ジェラルールもシェニエの詩に感動し、階級社会への不満を爆発させて伯爵家を飛び出す。5年後、ジェラルールは革命政府の高官に昇りつめている。マッドレーナは侍女のベルシと共に零落し、革命政府に批判的なシェニエは密偵に狙われている。二人は監視の目をくぐりぬけて再会し愛を確かめ合うが、マッドレーナを探すジェラルールによってシェニエは捕らえられ革命裁判にかけられる。マッドレーナはジェラルールにシェニエの助命を懇願。ジェラルールは自分の横恋慕を恥じ、シェニエの弁護に回るが受け入れられず死刑判決が下る。ジェラルールの計らいでマッドレーナは女死刑囚の身代わりとなってシェニエが囚われている監獄へ入る。再会を歓ぶ二人は、永遠の愛を誓いながら断頭台へ運ばれていく。



2005年公演より

U. ジョルダノ

## アンドレア・シェニエ

Andrea Chénier / Umberto Giordano

全4幕〈イタリア語上演／字幕付〉

指揮……………	フレデリック・シャスラン
Conductor	Frédéric Chaslin
演出・美術・照明……………	フィリップ・アルロー
Production, Scenery, Lighting Design	Philippe Arlaud
衣裳……………	アンドレア・ウーマン
Costume Design	Andrea Uhmann
アンドレア・シェニエ……………	ミハイル・アガフォノフ
Andrea Chénier	Mikhail Agafonov
マッダレーナ……………	ノルマ・ファンティニー
Maddalena di Coigny	Norma Fantini
ジェラルール……………	アルベルト・ガザーレ
Carlo Gérard	Alberto Gazale
ルーシェ……………	成田博之
Roucher	Narita Hiroyuki
密偵……………	高橋 淳
Un Incredible	Takahashi Jun
コワニー伯爵夫人……………	森山京子
La Contessa di Coigny	Moriyama Kyoko
ベルシ……………	山下牧子
Bersi	Yamashita Makiko
マデロン……………	竹本節子
Madelon	Takemoto Setsuko
マテュー……………	大久保 眞
Mathieu	Okubo Makoto
フレヴィル……………	萩原 潤
Fléville	Hagiwara Jun
修道院長……………	加茂下 稔
L'Abate	Kamoshita Minoru
フーキエ・タンヴィル……………	小林由樹
Fouquier Tinville	Kobayashi Yoshiki
家令／シュミット……………	大澤 建
Il Maestro di Casa/Schmidt	Osawa Ken
合唱……………	新国立劇場合唱団
Chorus	New National Theatre Chorus
管弦楽……………	東京フィルハーモニー交響楽団
Orchestra	Tokyo Philharmonic Orchestra

2010.11/12 (金) 6:30 11/21 (日) 2:00  
 11/15 (月) 2:00 11/24 (水) 2:00  
 11/18 (木) 7:00

オペラパレス

【チケット料金(税込)】

S: 21,000円・A: 15,750円・B: 10,500円・C: 6,300円・D: 3,150円

【前売開始】2010.6/19 (土)

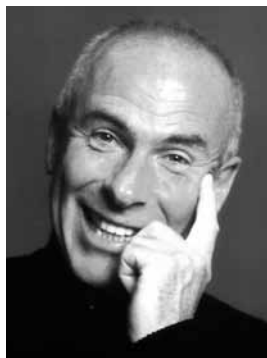
## アンドレア・シェニエ

Andrea Chénier / Umberto Giordano

指揮：フレデリック・シャスラン

Conductor : Frédéric Chaslin

パリ生まれ。ピアノと指揮を学んだ後、指揮活動が始めるかたわら、ピアニストとしても活躍する。これまでにウィーン国立歌劇場、メトロポリタン歌劇場、バイエルン州立歌劇場、ベルリン・ドイツ・オペラ、ハンブルク州立歌劇場、マドリッドのレアル劇場、バルセロナのリセウ劇場、フェニーチェ歌劇場、ブレゲンツ音楽祭などに登場。『セビリアの理髪師』『椿姫』『トスカ』『アイーダ』『ファルスタッフ』『イル・トロヴァトーレ』『ナブッコ』『夢遊病の女』『清教徒』楽劇『ニーベルングの指環』『サムソンとデリラ』『ウェルテル』『カルメン』『トロイ人』『ホフマン物語』など幅広いオペラ・レパートリーを誇る。新国立劇場には2009年『トスカ』で初登場。



演出・美術・照明：フィリップ・アルロー

Production, Scenery, Lighting Design : Philippe Arlaud

パリ生まれ。ストラスブール国立劇場演劇大学で演出、舞台美術、美術史を学ぶ。これまでにパリ・オペラ座、ウィーン国立歌劇場、ミラノ・スカラ座、ベルリン・ドイツ・オペラ、マリンスキー劇場といった世界の一流歌劇場や、ブレゲンツ、スポレートなどの音楽祭で『ドン・ジョヴァンニ』『チェネレントラ』『トリスタンとイゾルデ』『影のない女』『ルサルカ』などの演出、舞台美術、照明を手がける。2002年から07年までバイロイト音楽祭で『タンホイザー』を演出。新国立劇場では03年『ホフマン物語』演出・美術・照明を担当。“光の魔術師”の異名にたがわぬ鮮烈な視覚効果で、作品の幻想性を浮き彫りにした。さらに05年『アンドレア・シェニエ』に続き2010/2011シーズンオープニングの『アラベッタ』新演出で再登場となる。

## アンドレア・シェニエ

Andrea Chénier / Umberto Giordano

アンドレア・シェニエ: ミハイル・アガフォノフ

Andrea Chénier : Mikhail Agafonov

モスクワ生まれ。これまでにウィーン国立歌劇場、バイエルン州立歌劇場、ベルリン州立歌劇場、ベルリン・ドイツ・オペラ、英国ロイヤルオペラ、リヨン国立歌劇場、ウィーン・フォルクスオーパー、マンハイム州立歌劇場、トロントのカナディアン・オペラなどに出演している。『エルナーニ』タイトルロール、『愛の妙薬』ネモリーノ、『リゴレット』マントヴァ公爵、『アイーダ』ラダメス、『ドン・カルロ』タイトルロール、『ラ・ボエーム』ロドルフォ、『蝶々夫人』ピンカートン、『西部の娘』ジョンソン、『ボリス・ゴドゥノフ』グリゴリー、『金鶏』占星術師など幅広いレパートリーを誇る。今後はドレスデンで『トスカ』、ヘルシンキで『仮面舞踏会』、エッセンとアントワープで『アイーダ』などがある。新国立劇場初登場。



マッダレーナ: ノルマ・ファンティーニ

Maddalena di Coigny : Norma Fantini

イタリア北部のクネオ生まれ。これまでにウィーン国立歌劇場、ミラノ・スカラ座、バイエルン州立歌劇場、チューリッヒ歌劇場、ベルリン州立歌劇場、英国ロイヤルオペラ、メトロポリタン歌劇場など世界各地の主要歌劇場に出演。『オテロ』デズデーモナ、『運命の力』レオノーラ、『シモン・ボッカネグラ』マリア、『ドン・カルロ』エリザベッタ、『アイーダ』タイトルロール、『ドン・ジョヴァンニ』ドンナ・アンナ、『アンドレア・シェニエ』マッダレーナなどをレパートリーとする。今後の予定として、ハンブルク州立歌劇場で『アンドレア・シェニエ』、ザクセン州立歌劇場で『トスカ』などがある。新国立劇場には『アイーダ』タイトルロール、『仮面舞踏会』アメリア、『トスカ』タイトルロール、『イル・トロヴァトーレ』レオノーラ、2010年『ニューイヤーオペラパレス ガラ』に出演している。

ジェラルド: アルベルト・ガザーレ

Carlo Gérard : Alberto Gazale

イタリアのサッサリ生まれ。ヴェローナとマントヴァで学ぶ。カルロ・ベルゴンツィに師事。数多くのコンクールに優勝。1998年にバルマでオペラデビュー。これまでにミラノ・スカラ座、ウィーン国立歌劇場、ベルリン・ドイツ・オペラ、チューリッヒ歌劇場、マドリッドのレアル劇場などに出演。ヴェルディを得意とし、『マクベス』『ナブッコ』『リゴレット』『シモン・ボッカネグラ』のタイトルロールや、『オテロ』イアーゴのほか『アンドレア・シェニエ』ジェラルド、『トスカ』スカルピア、『道化師』トニオなど幅広いレパートリーを誇る。今後は、ヴェローナ野外劇場『仮面舞踏会』レナート、『イル・トロヴァトーレ』ルーナ伯爵、ウィーン国立歌劇場『椿姫』ジェルモン、『ナブッコ』タイトルロールなどに出演予定。新国立劇場初登場。



# トリスタンとイゾルデ

## Tristan und Isolde

オペラパレス | 5回公演 | 全3幕〈ドイツ語上演／字幕付〉

初演： 1865年6月10日 バイエルン宮廷歌劇場  
台本・作曲：リヒャルト・ワーグナー Richard Wagner (1813-1883)

### 演目選定にあたって

2010/2011シーズン芸術監督・尾高忠明が特に愛するドイツ後期ロマン派の作曲家ワーグナー円熟期の作品で、最高傑作と称えられています。オペラでは様々な愛が悲劇・喜劇の形で描かれていますが、これほど、身を焦がすような愛と苦悩を歌いあげた作品は少なく、ワーグナーの魔力ともいわれる魅力を全身で感じていただけることでしょう。現在実現しうであろう最高のワーグナー歌手陣をまとめ上げるのは、新国立劇場ピットに12年ぶりの登場となる大野和士です。スタイリッシュで、時に衝撃的な演出で作品から新たな魅力を引き出すイギリスの人気演出家デイヴィッド・マクヴィカーが新国立劇場に初登場です。

### 作品解説

ワーグナー作品に共通するテーマとなっている「芸術(愛)による全世界の救済」の思想が詰まった壮大な恋愛悲劇。中世ケルト伝説や中世宮廷詩人たちが伝えた叙事詩をもとに、作曲家自身が体験した裕福なパトロンの若妻との禁じられた愛も大きく影響したといわれています。ワーグナーは自らのオペラ作品を楽劇と呼び、ひと幕中にメロディーがとまることなく終幕まで流れつづける“無限旋律”や、特定の登場人物や状況を示すための“ライトモチーフ”を用いきましたが、『トリスタンとイゾルデ』でもこれらをふんだんに効果的に使用しています。単独で演奏されることも多い前奏曲や、クライマックスの〈イゾルデの愛の死〉は特に有名で、“トリスタン和音”と呼ばれる不安定で不思議な響きの和音が、官能的で甘美なうねりを呼び、聴くものをカタルシスに導きます。

### あらすじ

伝説上の中世。アイルランドの王女イゾルデは敵対するイングランド・コーンウォールのマルケ王との政略結婚のため、王の甥トリスタンが漕ぐ船に乗って護送される。かつての婚約者の仇でもあるトリスタンに密かに心惹かれるイゾルデは、船上で服毒心中を図るが侍女ブランゲーネは毒薬の代わりに愛の媚薬を手渡したため、それを飲んだトリスタンとイゾルデは瞬く間に熱烈な愛に陥る。マルケ王の妻となったイゾルデだが、トリスタンとの逢引きが続く。しかし、侍女の警告も空しく密会の場に王が現れる。トリスタンは王の家臣メロートの剣によって瀕死の重傷を負うが、従者クルヴェナールに連れられ自分の城に戻りイゾルデを待つ。ようやくイゾルデが到着するが、トリスタンは愛するイゾルデの腕の中で息絶える。媚薬の仕業と知って2人を許そうと王一行がやってくるが、イゾルデもトリスタンの後を追って果てる。

R. ワーグナー

## トリストアンとイゾルデ

Tristan und Isolde / Richard Wagner

全3幕(ドイツ語上演/字幕付)

指揮……………	大野和士
Conductor	Ono Kazushi
演出……………	デイヴィッド・マクヴィカー
Production	David McVicar
美術・衣裳……………	ロバート・ジョーンズ
Scenery and Costume Design	Robert Jones
照明……………	ポール・コンスタブル
Lighting Design	Paule Constable
振付……………	アンドリュー・ジョージ
Choreograph	Andrew George
トリストアン……………	ステファン・グールド
Tristan	Stephen Gould
マルケ王……………	ギド・イエンティンス
König Marke	Guido Jentjens
イゾルデ……………	イレーネ・テオリン
Isolde	Irène Theorin
クルヴェナール……………	ユッカ・ラジライネン
Kurwenal	Jukka Rasilainen
メロート……………	星野 淳
Melot	Hoshino Jun
ブランゲーネ……………	エレナ・ツィトコーワ
Brangäne	Elena Zhidkova
牧童……………	望月哲也
Ein Hirt	Mochizuki Tetsuya
舵取り……………	成田博之
Ein Steueremann	Narita Hiroyuki
若い船乗りの声……………	吉田浩之
Stimme eines jungen Seemanns	Yoshida Hiroyuki
合唱……………	新国立劇場合唱団
Chorus	New National Theatre Chorus
管弦楽……………	東京フィルハーモニー交響楽団
Orchestra	Tokyo Philharmonic Orchestra

2010.12/25 (土) 2:00 2011.1/4 (火) 2:00

12/28 (火) 5:00 1/7 (金) 2:00

1/10 (月・祝) 2:00

オペラパレス

【チケット料金(税込)】

S : 26,250円・A : 21,000円・B : 14,700円・C : 8,400円・D : 5,250円

【前売開始】2010.7/24 (土)

# トリスタンとイゾルデ

Tristan und Isolde / Richard Wagner

指揮：大野和士

Conductor : Ono Kazushi

東京生まれ。東京芸術大学指揮科卒業後、バイエルン州立歌劇場にてサヴァリッシュ、パタネー両氏に師事。1987年にイタリア「トスカニーニ国際指揮者コンクール」優勝。90年クロアチアのザグレブ・フィル、96年ドイツのバーデン州立歌劇場、2002年にはベルギー王立歌劇場（モネ劇場）の音楽監督を歴任。2008年フランス国立リヨン歌劇場首席指揮者に就任し、翌年フランス批評家協会によるクロード・ロスタン賞を受賞。リヨンでは10年カイア・サーリアホ『エミリー』（世界初演）、『ルイザ・ミラー』『パルジファル』などが予定されている。07年メトロポリタン・オペラにデビュー。同年デビューしたミラノ・スカラ座では、08年『マクベス』で日本人指揮者として初めてヴェルディを振った。メトロポリタン・オペラでは10年『さまよえるオランダ人』を予定している。08年には48歳の若さで紫綬褒章を受章。新国立劇場には1998年『魔笛』以来、待望の再登場となる。



演出：デイヴィッド・マクヴィカー

Production : David McVicar

グラスゴー生まれ。ロイヤル・スコティッシュ・アカデミーで学ぶ。これまでに英国ロイヤルオペラ、シャンゼリゼ劇場、モネ劇場、マリンスキー劇場、メトロポリタン歌劇場、フランクフルト・オペラ、ベルリン・ドイツ・オペラ、グラインドボーン音楽祭、ザルツブルク音楽祭、シカゴ・リリック・オペラなどでオペラの演出を手がけている。これまでに『ドン・ジョヴァンニ』『フィガロの結婚』『皇帝ティトゥスの慈悲』『イドメネオ』『魔笛』『リゴレット』『マクベス』『椿姫』『トスカ』『ドン・カルロ』『蝶々夫人』『ラインの黄金』『ワルキューレ』『ジークフリート』『カルメン』『真夏の夜の夢』『ばらの騎士』『ホフマン物語』『ねじの回転』『ビリー・バッド』『サロメ』などを手掛ける。今後の予定として、英国ロイヤルオペラで『コジ・ファン・トゥッテ』『アイーダ』の他、メトロポリタン歌劇場、シャンゼリゼ劇場などがある。新国立劇場初登場。

トリスタン：ステファン・グールド

Tristan : Stephen Gould

アメリカのヴァージニア州生まれ。これまでにウィーン国立歌劇場、ザクセン州立歌劇場、バイエルン州立歌劇場などヨーロッパ各地の歌劇場で活躍。『フィデリオ』フロレスタン、『パルジファル』『ピーター・グライムズ』タイトルロール、楽劇「ニーベルングの指環」ジークフリート、などをレパートリーとする。今後の予定としては2010年にベルリン・ドイツ・オペラ『タンホイザー』タイトルロール、ウィーン国立歌劇場『さまよえるオランダ人』エリックと楽劇「ニーベルングの指環」（チクルス）、初登場のメトロポリタン歌劇場で『さまよえるオランダ人』と『ローエングリン』などに出演予定。新国立劇場にはこれまで『フィデリオ』フロレスタン、『オテロ』タイトルロールで出演。今回のトリスタン役は、ロールデビューとなる。



マルケ王：ギド・イェンティンス

König Marke : Guido Jentjens

ドイツのゲルデルン生まれ。ケルン音楽大学で声楽を学ぶ。これまでにザクセン州立歌劇場、ハンブルク州立歌劇場、フランクフルト・オペラのほか、ベルリン、ミュンヘン、パリ、ブリュッセル、バルセロナなどヨーロッパ各地で活躍。バイロイト音楽祭にもたびたび出演している。『魔笛』ザラストロ、『後宮からの誘拐』オスミン、『フィデリオ』ロッコ、『さまよえるオランダ人』ダーラント、『トリスタンとイゾルデ』マルケ王、『ニュルンベルクのマイスター・ジנגー』ポグナー、『パルジファル』グルネマンツ、『ラインの黄金』ファフナー、『ボリス・ゴドゥノフ』タイトルロール、『ばらの騎士』オックスなどをレパートリーとする。新国立劇場初登場。





# トリスタンとイゾルデ

Tristan und Isolde / Richard Wagner

## イゾルデ: イレーネ・テオリン

Isolde : Iréne Theorin

スウェーデン生まれ。デンマーク王立歌劇場の専属歌手として数多くの公演に出演。これまでにベルリン・ドイツ・オペラ、ケルン歌劇場、英国ロイヤルオペラ、メトロポリタン歌劇場、モネ劇場などに出演。2008年バイロイト音楽祭にイゾルデ役で劇的なロール・デビュー。『ドン・ジョヴァンニ』ドンナ・アンナ、『ドン・カルロ』エリザベッタ、『オテロ』デズデーモナ、『さまよえるオランダ人』ゼンタ、『タンホイザー』エリーザベト、『ワルキューレ』ブリュンヒルデ、『トリスタンとイゾルデ』イゾルデ、『道化師』ネッタなど幅広いレパートリーを誇る。今後の予定としては、ザルツブルク音楽祭『エレクトラ』、ブダペスト、ベルリン、ミラノでブリュンヒルデ、イングリッシュ・ナショナル・オペラで『パルジファル』クンドリーなど。新国立劇場では『トゥーランドット』タイトルロールで初登場、10年『ジークフリート』『神々の黄昏』ブリュンヒルデに出演予定。



## クルヴェナール: ユッカ・ラジライネン

Kurwenal : Jukka Rasilainen

フィンランド生まれ。1986年ドルトムント歌劇場の専属歌手となり本格的に活動開始。これまでにウィーン国立歌劇場、ザクセン州立歌劇場、ベルリン州立歌劇場、ベルリン・ドイツ・オペラ、バリ・オペラ座、ローマ歌劇場、バイロイト音楽祭、エディンバラ音楽祭などに出演。『フィガロの結婚』フィガロと伯爵、『ドン・ジョヴァンニ』レボレッロ、『オテロ』イアーゴ、『トスカ』スカルピア、『ナブッコ』ザッカーリア、『フィデリオ』ドン・ピツァロ、『魔弾の射手』カスパール、楽劇『ニーベルングの指環』ヴォータンとさすらい人、『トリスタンとイゾルデ』クルヴェナール、『カルメン』エスカミーリョ、『影のない女』バラク、『エレクトラ』オレストなどレパートリーは幅広い。今後の予定としては、2012年にダラスで『トリスタンとイゾルデ』などがある。新国立劇場には03年『ジークフリート』さすらい人、09年『ラインの黄金』『ワルキューレ』ヴォータンに出演。10年『ジークフリート』さすらい人に出演予定。

## メロート: 星野 淳

Melot : Hoshino Jun

北海道大学理Iを経て、北海道教育大学札幌分校特設音楽科卒業。二期会オペラスタジオ第34期修了。修了時に優秀賞受賞。『フィガロの結婚』フィガロと伯爵、『ドン・ジョヴァンニ』タイトルロールとレボレッロ、『コジ・ファン・トゥッテ』グリエルモとドン・アルフォンソ、『魔笛』パパゲーノ、『リゴレット』タイトルロール、『椿姫』ジェルモン、『仮面舞踏会』レナート、『運命の力』ドン・カルロ、『メリー・ウィドウ』ダニロ、サン＝ブリオッシュ、『こうもり』ファルケなどに出演。最近では2007年『ダフネ』（新制作・日本初演）で大きな存在感を発揮した。新国立劇場には『カルメン』モラレス、『光』ミツダ、『セビリアの理髪師』フィオレッロ、『道化師』シルヴィオ、『愛怨』玄照皇帝、『黒船』吉田、コンサート・オペラ『ベレアスとメリザンド』ゴロー、『ヴォツェック』第二の従弟職人など出演多数。二期会会員。



## ブランゲーネ: エレナ・ツイトコーワ

Brangäne : Elena Zhidkova

ロシア出身。ゲッツ・フリードリヒに見出されベルリン・ドイツ・オペラの専属歌手となり、以来ザクセン州立歌劇場、ミラノ・スカラ座、ベルリン・ドイツ・オペラ、バイロイト音楽祭、エディンバラ音楽祭などに出演。『コジ・ファン・トゥッテ』ドラベッラ、『エウゲニ・オネーギン』オルガ、『トリスタンとイゾルデ』ブランゲーネ、『ラインの黄金』フリッカ、『神々の黄昏』ヴァルトラウテ、『タンホイザー』ヴェーヌス、『ばらの騎士』オクタヴィアン、『青ひげ公の城』ユディットなどを歌っている。新国立劇場には2003年『フィガロの結婚』ケルビーノで初登場後、『カルメン』タイトルロール、『コジ・ファン・トゥッテ』ドラベッラ、『こうもり』オルロフスキー公爵、『ばらの騎士』オクタヴィアン、『ラインの黄金』『ワルキューレ』フリッカ、新国立劇場開場10周年記念オペラ・バレエガラ公演に出演。

# 夕鶴

## YUZURU

オペラパレス | 3回公演 | 全1幕 〈日本語上演〉

初演：1952年1月30日 大阪朝日会館  
作：木下順二 Kinoshita Junji  
作曲：團伊玖磨 Dan Ikuma (1924-2001)  
台本：木下順二の戯曲「夕鶴」

### 演目選定にあたって

尾高オペラ芸術参与(次期オペラ芸術監督予定者)の任期においても、毎シーズン日本人作曲家による名作を堪能していただきます。『夕鶴』は700回以上上演されている日本オペラの不朽の名作です。2000年栗山民也(新国立劇場前演劇芸術監督)が初めてオペラ演出を手がけたプロダクションで、民話の世界から、普遍的な人間ドラマを描きだしています。「限りなく美しく、透明な舞台美術にしたい」という演出家が創りだした舞台は、能舞台をイメージしたシンプルで大きな空間。これは、つうの本当の家である“空”を表し、演出のテーマとなっています。高度な譜面考察のエキスパートとも呼べる高関健の指揮や、美しい日本語を丁寧に歌い上げる歌手陣にも、どうぞご期待ください。

### 作品解説

気鋭の作曲家として注目を集めていた團伊玖磨の初めてのオペラで團伊玖磨は、「エネルギーのすべてを注ぎ込んで出来上がった作品で、私自身のオペラ創作の出発点です」と語っています。1952年27歳の團自身の指揮で初演を迎えました。日本の代表的な民話『つるの恩返し』を素材とした木下順二の戯曲『夕鶴』の付随音楽を、團伊玖磨が作曲したことがきっかけとなってオペラ作品が誕生。オペラ化にあたり、戯曲のセリフを一切変更してはならないという厳しい条件がありましたが、團伊玖磨の音楽は日本語の美しいリズムを生かし、限りなく美しい旋律となって自然に聞くものの心に染みとおる名作となりました。初演からほぼ半世紀を経た現在、上演回数は国内外で700回を優に超し、数々の受賞歴はこの作品の実力と人気のほどを示しています。57年には、日本創作オペラ初の海外公演としてチューリッヒの音楽祭に招かれ、砂原美智子が〈つう〉を演じる『夕鶴』がドイツ語によって上演されました。その後も、ニューヨーク(60年)、中国(79年)、ロシア(98年)などことあるごとに日本の文化使節的存在として世界各地で上演されています。その魅力は計り知れず、日本の風土が育んだ豊かな感性が、作品中に叙情美として、また幻想的なムードとして現れ、一方では人間の良心と物欲のしがらみや相克が描かれています。〈つう〉のアリア〈私の大事な与ひょう〉〈そのうち一枚だけは、大切にとっておいてね〉などに、〈つう〉の一途でひたむきな愛がきめ細やかに込められ、心に残る聴きどころとなっています。

### あらすじ

ある雪深い村のはずれのあばら屋。貧しいが心根の優しい与ひょうは、つうという女性を女房にしてくらしている。美しくて優しいつうは、村の子供たちにも人気がある。ある日、惣どと運ずが、つうが織る見事な鶴の千羽織りを、与ひょうが売って大儲けをしているという噂話をしながら様子を伺いに来る。2人はこの千羽織りを都で売って大儲けをしようと企み、つうに布を織らせるよう与ひょうをたきつける。つうは、与ひょうが金に目がくらんでいることに気付いたが、絶対に織っている所を覗かないよう念を押して一度だけ織ることを承諾し、機屋に入る。しかし、機屋を覗いた惣どと運ずが機屋には鶴しかいないというので自分もその目で確かめる。慌ててつうを捜しまわる与ひょう。すると、機の音が止まり、機屋から出てきたつうが与ひょうに2枚の千羽織りを渡す。つうと再会できた与ひょうは喜びに泣き崩れるが、つうは機屋の中を見られてしまったのでもはや人間の姿ではいられない。夕空に鶴の姿に戻ったつうが消えていく。



2000年公演より

團 伊玖磨  
夕鶴

YUZURU / Dan Ikuma

全1幕〈日本語上演〉

指揮……………高関 健  
Conductor Takaseki Ken

演出……………栗山民也  
Production Kuriyama Tamiya

美術……………堀尾幸男  
Scenery Design Horio Yukio

衣裳……………植田いつ子  
Costume Design Ueda Itsuko

照明……………勝柴次朗  
Lighting Design Katsushiba Jiro

つう……………〈4日・6日〉 〈5日〉  
Tsu 釜洞祐子 腰越満美  
Kamahora Yuko Koshigoe Mami

与ひょう……………経種廉彦 小原啓楼  
Yohyo Idane Yasuhiko Ohara Keirou

運ず……………工藤 博 谷 友博  
Unzu Kudo Hiroshi Tani Tomohiro

惣ど……………峰 茂樹 島村武男  
Sodo Mine Shigeki Shimamura Takeo

管弦楽……………東京交響楽団  
Orchestra Tokyo Symphony Orchestra

2011.2/4 (金) 6:30

2/5 (土) 2:00

2/6 (日) 2:00

オペラパレス

【チケット料金(税込)】

S : 15,750円・A : 12,600円・B : 8,400円・C : 6,300円・D : 3,150円

【前売開始】2010.9/18 (土)

# 夕鶴

YUZURU / Dan Ikuma

指揮：高関 健

Conductor : Takaseki Ken

東京生まれ。桐朋学園大学在学中の1977年にカラヤン指揮者コンクールジャパンで優勝。卒業後ベルリン・フィルハーモニー・オーケストラ・アカデミーに留学し、カラヤンのアシスタントを務めた。81年にベルゲン交響楽団(現ベルゲン・フィルハーモニー管弦楽団)を指揮してヨーロッパに、85年日本フィルハーモニー交響楽団定期演奏会で日本にデビュー。その後もNHK交響楽団、ウィーン交響楽団、オスロ・フィルハーモニー管弦楽団、デンマーク国立放送交響楽団、ベルリン・ドイツ交響楽団、クラングフォーラム・ウィーン、ケルン放送交響楽団など国内外のオーケストラに客演。94年には群馬交響楽団ヨーロッパ公演を成功に導いた。広島交響楽団音楽監督・常任指揮者、新日本フィルハーモニー交響楽団正指揮者、大阪センチュリー交響楽団常任指揮者、群馬交響楽団音楽監督などを務め、現在、札幌交響楽団正指揮者(2003年4月～)。1996年6月に渡邊暁雄音楽基金音楽賞受賞。新国立劇場オペラ初登場。98年新国立劇場バレエ『梵鐘の聲—平家物語より—』指揮。



演出：栗山民也

Production : Kuriyama Tamiya

早稲田大学文学部演劇科卒業。主な演出作品に、『ゴドーを待ちながら』『阿国』『獅子を飼う』『GHETTO / ゲットー』『海の沸点』『エヴァ、帰りのない旅』『太鼓たたいて笛ふいて』『マリー・アントワネット』『私はだれでしょう』『ロマンス』『かもめ』『闇に咲く花』『赤い城 黒い砂』『きらめく星座』『BLACK BIRD』『炎の人』『組曲虐殺』『海をゆく者』などがある。紀伊國屋演劇賞、読売演劇大賞最優秀演出家賞、芸術選奨文部大臣新人賞、毎日芸術賞第1回千田是也賞、第1回朝日舞台芸術賞などを受賞。新国立劇場では『今宵限りは……』『ブッダ』『キーン』『夜への長い旅路』『欲望という名の電車』『ピカドン・キジムナー』『夢の裂け目』『ワーニャおじさん』『櫻の園』『浮標』『夢の泪』『涙の谷、銀河の丘』『世阿彌』『胎内』『喪服の似合うエレクトラ』『箱根強羅ホテル』『母・胆っ玉とその子供たち』『夢の痂』『CLEANSKINS / きれいな肌』『氷屋来たる』『まほろば』、オペラ『夕鶴』『蝶々夫人』を演出。新国立劇場演劇前芸術監督、現在、新国立劇場演劇研修所所長。

# 夕鶴

YUZURU / Dan Ikuma

## つう：釜洞祐子

Tsu : Kamahora Yuko

神戸女学院大学音楽学部、東京音楽大学研究科オペラコース、文化庁オペラ研修所第4期修了。1982年度日本音楽コンクール第1位。83年日生劇場『魔笛』夜の女王役で本格的デビュー。翌年ハンブルク州立歌劇場日本公演の『魔笛』同役で急遽代演し、その大役を見事果たした。86年から92年までドイツ・ヘッセン州立カッセル歌劇場と契約を結び、ハンブルク、ミュンヘン、ドレスデン等の劇場へも客演。94年度ジロー・オペラ賞。主役兼プロデューサーとして絶賛を浴びた三木稔『春琴抄』とプーランク『声』のソロリサイタルに対し04年度音楽クリティック・クラブ賞受賞。新国立劇場には98年『アラベッラ』ズデンカ、2001年『リゴレット』ジルダ、03年『光』ホアン、06年『愛怨』桜子／柳玲、08年『黒船 一夜明け』お吉に続いて6回目の登場となる。二期会会員。



## つう：腰越満美

Tsu : Koshigoe Mami

東京コンセルヴァトワール尚美ディプロマコース修了。文化庁派遣芸術家在外研修員としてイタリアに留学。レパートリーとして、『ドン・ジョヴァンニ』ドンナ・エルヴィーラ、『コジ・ファン・トゥッテ』デスピーナ、『修道女アンジェリカ』タイトルロール、『ラ・ボエーム』ミミとムゼッタ、『カルメン』タイトルロールとミカエラ、『蝶々夫人』タイトルロール、『トスカ』等が挙げられる。2003年二期会オペラ公演『蝶々夫人』タイトルロール、04年には宮本亜門演出『ドン・ジョヴァンニ』に出演。新国立劇場には1997年『建・TAKERU』夏乃、99年『天守物語』侍女 萩、2001年『リゴレット』チェブラーノ伯爵夫人、『ドン・ジョヴァンニ』ドンナ・エルヴィーラ、02年『忠臣蔵』綾衣、04年『鳴神』雲の絶間姫、08年『黒船 一夜明け』お吉に続いて8回目の登場となる。二期会会員。



## 与ひょう：経種廉彦

Yohyo : Idane Yasuhiko

東京芸術大学、同大学大学院修了。文化庁オペラ研修所第7期修了。1988年イタリア声楽コンクール金賞受賞。91年より文化庁派遣芸術家在外研修員としてミラノに留学。帰国後は『コジ・ファン・トゥッテ』フェルランド、『魔笛』タミーノ、サリエリの『ファルスタッフ』フォード氏、『ルル』画家と黒人、『後宮からの逃走』ベルモンテ、『椿姫』アルフレードなど精力的に出演を重ねている。新国立劇場では『アラベッラ』マッテオ、『愛怨』大野浄人、『イドメネオ』アルバーチェ、『ばらの騎士』エレメル伯、『トゥーランドット』パン、『修禅寺物語』春彦、こどものためのオペラ劇場『ジークフリートの冒険』ジークフリートなど数多く出演。国立音楽大学及び東京音楽大学講師。二期会会員。



## 与ひょう：小原啓楼

Yohyo : Ohara Keirou

勤務していたソフトウェア開発企業を退職し、オペラを学ぶため東京芸術大学声楽科に入学。同大学大学院修士課程オペラ科修了。同大学院博士課程修了。第69回読売新人演奏会に出演。第41回日伊声楽コンクール第3位並びに歌曲賞受賞。これまでに2006年日生劇場『カプレーティ家とモンテッキ家』テバルド、『チェネレントラ』ドン・ラミーロ、『イドメネオ』イダマンテ、『こうもり』アルフレード、『ジャンニ・スキッキ』リヌッチョ、『フィガロの結婚』バジリオ、『愛の妙薬』ネモリーノなどに出演。新国立劇場には06年07年こどものためのオペラ劇場『スペース・トゥーランドット』キャプテン・レオ役で出演。二期会会員。



# 椿姫

## La Traviata

オペラパレス | 5 回公演 | 全3幕 (イタリア語上演/字幕付)

初 演：1853 年3月6日 ヴェネツィア・フェニーチェ歌劇場  
作 曲：ジュゼッペ・ヴェルディ Giuseppe Verdi (1813-1901)  
台 本：フランチェスコ・マリア・ピアヴェ Francesco Maria Piave

### 演目選定にあたって

オペラ作品としても、オペラの醍醐味を味わっていただくためにも“原点”と言える名作。2002/2003シーズン開幕公演として登場したプロダクションで、イタリアを代表するオペラ演出家ルーカ・ロンコーニが、美しく知的な舞台を作り上げています。綿密な心情描写に定評があり、本作品でも連続性のある舞台や人物の動きを通して、一貫した流動性を表現しています。華やかな社交界から孤独感に満ちたヴィオレッタの寝室への舞台転換など舞台上の装置をスライドさせ、登場人物の心が時間と共に流れるさまを見事に描いています。歌手陣には、ヴィオレッタ役で定評のあるパトリツィア・チョーフィに加え、世界で活躍するアジア出身歌手の中から、ウーキュン・キムがアルフレードで新国立劇場初登場となります。注目の指揮には、わが国指揮界の中堅世代を代表する広上淳一が新国立劇場に初登場となります。国内外で培った丁寧な音楽づくりにどうぞご期待ください。

### 作品解説

イタリアオペラの中でも不動の人気を誇るオペラ。第1幕夜会のシーンで歌われる〈乾杯の歌〉はあまりにも有名。原作は、アレクサンドル・デュマ・フィスが19世紀のパリに実在した高級娼婦をモデルにして書いた小説《椿の花を持つ女》に拠る同名の戯曲です。ヴェルディの活動を3期に分けるならば、この作品は『リゴレット』『イル・トロヴァトーレ』とともに中期傑作群の一つに数えられます。芝居を観て感激したヴェルディは、それまで壮大な歴史物語や文豪が描いた英雄をテーマに取り上げていたのに対し、1850年当時に時代を設定して同時代に生きる純粋で不幸な女性をオペラのヒロインに据えた“現代劇”の誕生となりました。音楽的にも、この作品において伝統的なオペラ形式に対して革新を試みており、音楽は形式よりも登場人物の感情表現に重きが置かれて当時としては斬新で現代的なオペラとなりました。タイトルロールであるヴィオレッタ役は全幕を通しほぼ出ずっぱりで、演技力に加えて、華やかなコロラトゥーラの技巧から情感豊かな表現力、死を目前にしたドラマチックな声まで要求される難役です。悲劇を感じさせる前奏曲。1幕で歌われる〈乾杯の歌〉、〈花から花へ〉などオペラファンならずとも聞き覚えのある曲が並ぶ超人気作品です。



### あらすじ

パリの高級娼婦ヴィオレッタは、南仏の富豪の息子でパリ遊学中のアルフレードから求愛を受けるが、彼の真剣な愛に当初ためらいを覚える。しかしその真摯な愛に打たれて、心を開く。その後ヴィオレッタとアルフレードが郊外で一緒に暮らしているところに、アルフレードが留守の間に、彼の父ジェルモンが訪ねてくる。彼はヴィオレッタに、アルフレードの妹の結婚に差しさわりがあるので、このスキャンダラスな関係を絶つように訴える。アルフレードへの愛のために彼女はつらさをこらえて同意し、アルフレードに一方向的な別れの手紙を残して去る。パリに戻ったヴィオレッタがかつてのパトロンであるドゥフォール男爵とパーティーに出かけると、アルフレードが現れ、彼女の不義をののしる。そこにジェルモンがやってきて、息子を叱責する。時が経ち、肺病の進んだヴィオレッタは病床にある。彼女に宛てた手紙の中で、ジェルモンは息子のために彼女を犠牲にしたことを認め謝罪する。その病床にアルフレードが入ってきて許しを請う。彼は自分たちの残りの人生を幸せに一緒に過ごそうと約束する。そのとき彼は、ヴィオレッタの病がどれほど重いかを知る。彼女はアルフレードの言葉に感激し、ほんの少しの間力を出して立ち上がるが、やがて倒れて息絶える。



2002年公演より

G. ヴェルディ

## 椿姫

La Traviata / Giuseppe Verdi

全3幕〈イタリア語上演／字幕付〉

指揮……………	広上淳一
Conductor	Hirokami Junichi
演出……………	ルーカ・ロンコーニ
Production	Luca Ronconi
装置……………	マルゲリータ・パッリ
Set Design	Margherita Palli
衣裳……………	カルロ・マリア・ディアッピ
Costume Design	Carlo Maria Diappi
照明……………	セルジオ・ロッシ
Lighting Design	Sergio Rossi
ヴィオレッタ……………	パトリツィア・チョーフィ
Violetta Valéry	Patrizia Ciofi
アルフレード……………	ウーキュン・キム
Alfredo Germont	Woo-Kyung Kim
ジェルモン……………	ルチオ・ガッロ
Giorgio Germont	Lucio Gallo
フローラ……………	小野和歌子
Flora Bervoix	Ono Wakako
ガストン子爵……………	樋口達哉
Visconte Gastone	Higuchi Tatsuya
ドウフォール男爵……………	小林由樹
Barone Douphol	Kobayashi Yoshiki
ドビニー侯爵……………	東原貞彦
Marchese D'Obigny	Higashihara Sadahiko
医師グランヴィル……………	鹿野由之
Dottor Grenvil	Shikano Yoshiyuki
アンニーナ……………	渡辺敦子
Annina	Watanabe Atsuko
合唱……………	新国立劇場合唱団
Chorus	New National Theatre Chorus
管弦楽……………	東京交響楽団
Orchestra	Tokyo Symphony Orchestra

2011.2/14 (月) 6:30 2/23 (水) 7:00  
 2/17 (木) 2:00 2/26 (土) 2:00  
 2/20 (日) 2:00

オペラパレス

【チケット料金(税込)】

S: 21,000円・A: 15,750円・B: 10,500円・C: 6,300円・D: 3,150円

【前売開始】2010.10/9 (土)

# 椿姫

La Traviata / Giuseppe Verdi

指揮：広上淳一

Conductor : Hirokami Junichi

東京生まれ。東京音楽大学指揮科に学ぶ。第1回キリル・コンドラシン国際指揮者コンクールに優勝し、国際的な活動を開始。ノールショピング交響楽団首席指揮者、日本フィルハーモニー交響楽団正指揮者、リンブルク交響楽団首席指揮者、コロンバス交響楽団音楽監督を歴任する傍らフランス国立管弦楽団、ベルリン放送交響楽団、ウィーン交響楽団など欧米各地で客演。2007年夏にはサイトウ・キネン・フェスティバル松本に招聘され、ハイドンとラフマニノフ、08年5月には小澤征爾の代役として急遽、水戸室内管弦楽団の指揮台にたち、モーツァルト、ベートーヴェンほかのプログラムとともに絶賛を博した。オペラ指揮の分野でも1989、90年のシドニー歌劇場におけるヴェルディの『仮面舞踏会』や『リゴレット』が高く評価されたのははじめ、最近では藤原歌劇団公演『椿姫』、関西二期会公演『フィガロの結婚』、日生劇場『後宮からの逃走』、『利口な女狐の物語』が記憶に新しい。新国立劇場初登場。



演出：ルーカ・ロンコーニ

Production : Luca Ronconi

チュニジア・スース生まれ。ローマで演劇を学んだ後俳優として活躍。1963年演出家に転身、斬新な作品を次々と発表し、鬼才演出家として名を成す。67年トリノのテアトロ・レージョでオネゲル『火刑台上のジャンヌ・ダルク』などを手掛けてオペラの演出に進出。ミラノ・スカラ座に73年『ワルキューレ』でデビュー、77年にはアバド指揮『ドン・カルロ』の成功でオペラ演出家としての名声を確立、88年ムーティ指揮『ウィリアム・テル』で全幕バックをスライドで構成し話題を集めた。他の演出作品は、ザルツブルク音楽祭の『ドン・ジョヴァンニ』、ミラノ・スカラ座の『ナクス島のアリアドネ』などがある。ルキーノ・ヴィスコンティたちの後を受けた第二代として独自の世界観と美学を以って、イタリアを中心に世界の主要歌劇場で活躍。74年から76年までヴェネツィア・ビエンナーレの演劇部門の監督、98年からはミラノのピッコロ劇場の芸術監督を務めている。

# 椿姫

La Traviata / Giuseppe Verdi

ヴィオレッタ: パトリツィア・チオーフィ

Violetta Valéry : Patrizia Ciofi

シエナ生まれ。これまでにミラノ・スカラ座、英国ロイヤルオペラ、パリ・オペラ座、パリ・シャトレ座、マドリッドのレアル劇場、ヴェネツィアのフェニーチェ歌劇場、ロッシェニ・オペラ・フェスティバルなどに出演。『椿姫』ヴィオレッタ、『ファルス・タッフ』、『ランメルモールのルチア』タイトルロール、『フィガロの結婚』スザンナ、『ドン・ジョヴァンニ』ドンナ・アンナ、『タンクレディ』アメナイーデ、『ポッペアの戴冠』タイトルロールなどを歌っている。2010年にはバルセロナで『連帯の娘』マリ、ウィーンで『リゴレット』ジルダ、11年にはサン・ディエゴで『ばらの騎士』ゾフィー、ビルバオで『ロミオとジュリエット』ジュリエットなどに出演予定。新国立劇場初登場。



アルフレード: ウーキュン・キム

Alfredo Germont : Woo-Kyung Kim

ソウル生まれ。同市の漢陽大学、ミュンヘン音楽大学で学ぶ。2003/2004シーズンよりザクセン州立歌劇場の専属歌手。バイエルン州立歌劇場、ハンブルク州立歌劇場、ベルリン・ドイツ・オペラ、メトロポリタン歌劇場、英国ロイヤルオペラなどに出演。『魔笛』タミーノ、『ドン・ジョヴァンニ』ドン・オッターヴィオ、『椿姫』アルフレード、『リゴレット』マントヴァ公爵、『ナブッコ』イズマエーレ、『オテロ』カッシオ、『ファルス・タッフ』フェントンなどをレパートリーとする。今後は、2010年バイエルン州立歌劇場で『椿姫』、ザクセン州立歌劇場で『ファウスト』、ハンブルク州立歌劇場と2011年バイエルン州立歌劇場で『ラ・ボエーム』、ザクセン州立歌劇場で『オテロ』、2012年トゥールーズで『皇帝ティトゥスの慈悲』タイトルロールなどに出演予定。新国立劇場初登場。

ジェルモン: ルチオ・ガッロ

Giorgio Germont : Lucio Gallo

イタリアのタラント生まれ。これまでにウィーン国立歌劇場、ミラノ・スカラ座、バイエルン州立歌劇場、ベルリン・ドイツ・オペラ、英国ロイヤルオペラ、メトロポリタン歌劇場、ザルツブルク音楽祭などに出演。『ドン・ジョヴァンニ』タイトルロールとレボレッロ、『マクベス』タイトルロール、『オテロ』イアーゴ、『さまよえるオランダ人』タイトルロール、『トスカ』スカルピア、『カルメン』エスカミーリョ、『フィデリオ』ドン・ピツァアロなどレパートリーは幅広い。今後の予定としては、ベルリン国立歌劇場、ザクセン州立歌劇場およびウィーン国立歌劇場で『トスカ』、英国ロイヤルオペラ『ジャンニ・スキッキ』などがある。新国立劇場には『西部の娘』『ドン・ジョヴァンニ』『オテロ』に続き4回目の登場。



フローラ: 小野和歌子

Flora Bervoix : Ono Wakako

東京出身。東京芸術大学音楽学部声楽科卒業、同大学院修士課程修了。2000年日生劇場オペラ教室『ヘンゼルとグレーテル』ヘンゼル役でオペラデビュー。04年よりローマに留学、翌年から2年間チューリッヒ歌劇場インターナショナル・オペラ・スタジオに所属。06年アダム・フィッシャー指揮『利口な女狐の物語』でチューリッヒ歌劇場デビュー。同劇場でサンティ指揮のザンドナーイ『フランチェスカ・ダ・リミニ』ズマラーグディに急遽代役に抜擢された。08年『ばらの騎士』オクタヴィアンでローマ歌劇場デビュー。第20回五島記念文化賞オペラ新人賞を受賞し、09年夏には、ドイツのバート・ヴィルトバードのロッシェニ・オペラ・フェスティバルに参加した。ローマ在住。新国立劇場初登場。

# マノン・レスコー

## Manon Lescaut

オペラパレス | 6回公演 | 全4幕 〈イタリア語上演／字幕付〉

初演：1893年2月1日 トリノ・王立歌劇場

作曲：ジャコモ・プッチーニ Giacomo Puccini (1858-1924)

台本：ルッジェーロ・レオンカヴァッロ／マルコ・プラーガ／ドメーニコ・オリーヴァ／ルイーダ・イリカ／ジュゼッペ・ジャコーザ

Ruggiero Leoncavallo / Marco Praga / Domenico Oliva / Luigi Illica / Giuseppe Giacosa

### 演目選定にあたって

イタリア・オペラの巨匠ヴェルディと並んで、プッチーニのオペラ作品はラインアップに不可欠といえます。日本国内では『トスカ』『蝶々夫人』『ラ・ボエーム』がプッチーニのオペラ上演の上位を占めていますが、3作目にしてオペラ作曲家としての出世作となった『マノン・レスコー』は、甘美な間奏曲をはじめ全幕を通して美しく魅力に満ちた音楽にあふれ、その後の三部作（『外套』、『修道女アンジェリカ』、『ジャンニ・スキッキ』）に繋がる芸術性を感じることができます。オペラにおける“愛の形”は様々ですが、マノンの自由奔放な恋愛観念は、アラベッラやイゾルデ、『椿姫』のヴィオレッタのどれとも異なります。オペラごとに違った“愛の形”をご堪能ください。

### 作品解説

『マノン・レスコー』（1893年初演）は、3作目にしてプッチーニをヴェルディに続くイタリア・オペラの新星たらしめた出世作で、彼自身が“私の最大の音楽的傑作”と呼んだほどの作品です。原作は、アベ・プレヴォーによる当時の人気小説《騎士デ・グリュエとマノン・レスコーの物語》で、既にマスネが同じ題材で《マノン》（1884年）を発表し大成功を収めています。マノンとデ・グリュエの“青春と夢の挫折”を綴る音楽は、むせ返るような情熱に満ち、鮮やかな感情表現ときめ細かな人物表現は、後の名作を彷彿とさせます。〈何とすばらしい美人〉〈やわらかなレースに包まれても〉〈ひとり寂しく見捨てられて〉等のアリアは、誰しもを感動させずにはおかないでしょう。どうぞご期待ください。

#### あらすじ

18世紀、パリにほど近いアミアンの旅籠前の広場。若者が酒場で青春を謳歌している。妖艶で恋に奔放なマノン、父親の意向で兄レスコーに連れられ修道院入りすることになっていた。青年騎士デ・グリュエは、駅馬車から降り立ったマノンの美しさに一目惚れする。好色の老財務官ジェロントがマノン誘拐を企んでいることを知ったデ・グリュエはマノンと2人で駆け落ちしようと説得、友人らの協力を得てパリを目指す。しかしマノンはデ・グリュエとの貧乏生活に見切りをつけてジェロントの愛妾となるが、愛のない空しい日々、デ・グリュエを懐かしむようになる。密かに現れたデ・グリュエと愛を確かめ合っている所をジェロントに目撃され、マノンは姦通と窃盗の罪で国外追放の刑を受け、ル・アーヴルの港の仮獄舎に入れられる。デ・グリュエとレスコーのマノン救出の試みも空しく、マノンは新大陸への流刑船に乗せられることに。マノンへの熱愛がゆえにデ・グリュエは、流刑地への同行を懇願。2人は、アメリカのフランス植民地ニューオーリンズでも問題を起こして荒野をさまよう。飢えと渴きに衰弱したマノンは、為す術もなく絶望するデ・グリュエに永遠の愛を誓い、その腕に抱かれて息絶える。

G. プッチーニ

## マノン・レスコー

Manon Lescaut / Giacomo Puccini

全4幕〈イタリア語上演／字幕付〉

指揮……………リッカルド・フリッツァ  
Conductor Riccardo Frizza

演出……………ジルベール・デフロ  
Production Gilbert Deflo

マノン・レスコー……………スヴェトラ・ヴァッシレヴァ  
Manon Lescaut Svetla Vassileva

デ・グリュー……………グスターヴォ・ポルタ  
Des Grieux Gustavo Porta

レスコー……………ダリボル・イエニス  
Lescaut Dalibor Jenis

ジェロント……………妻屋秀和  
Geronte Tsumaya Hidekazu

エドモンド……………望月哲也  
Edmondo Mochizuki Tetsuya

旅籠屋の主人……………大澤 建  
L'oste Osawa Ken

舞踏教師……………羽山晃生  
Il maestro di ballo Hayama Kosei

音楽家……………池田香織  
Un musico Ikeda Kaori

軍曹……………大塚博章  
Sergente degli arcieri Otsuka Hiroaki

点灯夫……………松浦 健  
Un lampionaio Matsuura Ken

合唱……………新国立劇場合唱団  
Chorus New National Theatre Chorus

管弦楽……………東京交響楽団  
Orchestra Tokyo Symphony Orchestra

本公演(舞台装置・衣裳・小道具製作:ベルリン・ドイツ・オペラ、フィンランド国立歌劇場からのレンタル)は、ベルリン・ドイツ・オペラの協力により上演されます。

2011.3/15 (火) 6:30 3/24 (木) 2:00

3/18 (金) 2:00 3/27 (日) 2:00

3/21 (月・祝) 2:00 3/30 (水) 6:30

オペラパレス

【チケット料金(税込)】

S: 23,100円・A: 18,900円・B: 12,600円・C: 7,350円・D: 4,200円

【前売開始】2010.11/6 (土)



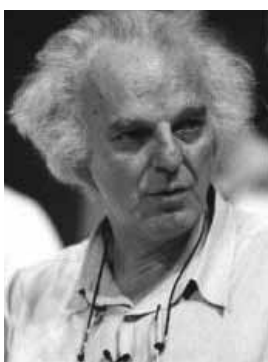
## マノン・レスコー

Manon Lescaut / Giacomo Puccini

指揮：リッカルド・フリッツァ

Conductor : Riccardo Frizza

イタリアのブレシャ生まれ。1994年から2001年までブレシア・シンフォニー首席指揮者を務める。これまでにメトロポリタン歌劇場、ワシントン・オペラ、ザクセン州立劇場、モネ劇場、ローマ歌劇場、フィレンツェ・テアトロ・コムナーレ、ロッシーニ・オペラ・フェスティバル、エクサンプロヴァンス音楽祭などに出演。『アイーダ』『リゴレット』『運命の力』『愛の妙薬』『ドン・ジョヴァンニ』『魔笛』『コジ・ファン・トゥッテ』などを振っている。今後の予定としては、ベルリンで『イタリアのトルコ人』、メトロポリタン歌劇場で『アルミーダ』、フィレンツェで『ドン・パスクワーレ』『マノン・レスコー』などがある。新国立劇場には05年『マクベス』、08年開場10周年記念特別公演『アイーダ』、09年『オテロ』に続き4回目の登場となる。



演出：ジルベール・デフロ

Production : Gilbert Deflo

ベルギーのフランドル地方生まれ。ブリュッセルで学んだ後、ミラノ・ピッコロ・テアトロで、ジョルジョ・ストレーレルに師事、現在まで通じる芸術的原点となる。フランクフルトでの『3つのオレンジへの恋』演出を皮切りに、『ボリス・ゴドゥノフ』『セビリアの理髪師』、ハンブルクでの『ル・グラン・マカーブル』、ウェリッシュ・ナショナル・オペラでの『影のない女』などを演出。その後、モンテヴェルディからツェムリンスキー『夢見るゲルゲ』に至るまで、150作品ものオペラ演出を手掛けてきた。ベルリン・ドイツ・オペラ、ミラノ・スカラ座、チューリッヒ歌劇場、ヴェローナ野外劇場など、世界の歌劇場を舞台に著名な指揮者や、すぐれた美術・衣装デザイナーと活躍。2009年はパリ・オペラ座で『仮面舞踏会』、バルセロナのリセウ歌劇場で『イル・トロヴァトーレ』などを演出。新国立劇場初登場。

## マノン・レスコー

Manon Lescaut / Giacomo Puccini

### マノン・レスコー：スヴェトラ・ヴァッシレヴァ

Manon Lescaut : Svetla Vassileva

ブルガリア生まれ。これまでにウィーン国立歌劇場、ミラノ・スカラ座、英国ロイヤルオペラ、フィレンツェ歌劇場、ローマ歌劇場、ジュネーヴ歌劇場、ワシントン・オペラ、シカゴ・リリック・オペラなどに出演。『ラ・ボエーム』ミミ、『トゥーランドット』リユー、『マノン・レスコー』タイトルロール、『椿姫』ヴィオレッタ、『リゴレット』ジルダ、『オテロ』デズデーモナ、『チェネレントラ』タイトルロール、『愛の妙薬』アディーナ、『カルメン』ミカエラ、『ルサルカ』タイトルロールなどを歌っている。今後の予定としては、シアトルで『ファルスタッフ』、サンフランシスコで『蝶々夫人』、ウィーン国立歌劇場で『蝶々夫人』と『マノン・レスコー』、ミラノ・スカラ座で『道化師』などがある。新国立劇場初登場。



### デ・グリュウ：グスターヴォ・ポルタ

Des Grioux : Gustavo Porta

アルゼンチンのコルドバ生まれ。1996年にブエノスアイレスのコロン劇場でデビュー。これまでにベルリン・ドイツ・オペラ、ライプツィヒ・オペラ、フランクフルト・オペラ、バレルモのマッシモ歌劇場、マドリッドのレアル劇場、スウェーデン王立歌劇場などに出演。『愛の妙薬』ネモリーノ、『ナブッコ』イズマエーレ、『仮面舞踏会』リッカルド、『蝶々夫人』ピンカートン、『西部の娘』ジョンソン、『マノン・レスコー』デ・グリュウ、『カルメン』ドン・ホセなどをレパートリーとする。今後の予定としては、ライプツィヒで『アイーダ』ラダメス、デュッセルドルフで『トスカ』カヴァラドッシと『カヴァレリア・ルスティカーナ』トゥリッドウなどがある。新国立劇場初登場。

### レスコー：ダリボル・イエニス

Lescaut : Dalibor Jenis

スロヴァキア共和国生まれ。ブラチスラヴァ音楽院で学び、イタリアに留学。これまでにウィーン国立歌劇場、ミラノ・スカラ座、ザクセン州立歌劇場、ベルリン・ドイツ・オペラ、ハンブルク州立歌劇場、パリ・オペラ座、英国ロイヤルオペラ、バルセロナのリセウ劇場、マドリッドのレアル劇場、ポローニャ歌劇場、ローマ歌劇場、ロッシーニ・オペラ・フェスティバルなどに出演。『セビリアの理髪師』フィガロ、『椿姫』ジェルモン、『ドン・カルロ』ロドリゴ、『仮面舞踏会』レナート、『マノン・レスコー』レスコー、『ラ・ボエーム』マルチェット、『エフゲニ・オネーギン』タイトルロールなどを歌っている。新国立劇場初登場。



### ジェロント：妻屋秀和

Geronte : Tsumaya Hidekazu

東京芸術大学卒業、同大学大学院オペラ科修了。1994年から2001年ライプツィヒ歌劇場、02年よりワイマールのドイツ国民劇場の専属歌手。今までに、ベルリン・ドイツ・オペラ、ベルリン州立歌劇場、デュッセルドルフ歌劇場、スコティッシュ・オペラなどに出演。主なレパートリーには『魔笛』ザラストロ、『トゥーランドット』ティムール、『ドン・カルロ』フィリップ二世、『エフゲニ・オネーギン』グレーミン公、『さまよえるオランダ人』ダーラント、『ばらの騎士』オックス男爵などがある。新国立劇場には『アイーダ』『ファルスタッフ』『フィガロの結婚』『ドン・ジョヴァンニ』『ラインの黄金』『ムツェンスク郡のマクベス夫人』『オテロ』『ヴォツェック』など多数出演している。藤原歌劇団団員。

# ばらの騎士

## Der Rosenkavalier

オペラパレス | 6回公演 | 全3幕〈ドイツ語上演／字幕付〉

初演：1911年1月26日 ドレスデン・宮廷歌劇場

作曲：リヒャルト・シュトラウス Richard Strauss (1864-1949)

台本：フーゴー・フォン・ホフマンスタール Hugo von Hofmannsthal

### 演目選定にあたって

尾高オペラ芸術参与(次期オペラ芸術監督予定者)が最も愛するドイツ後期ロマン派を代表するR.シュトラウス作品。2007年に英国の名匠ジョナサン・ミラーにより演出されたプロダクションを『ばらの騎士』初演100周年を記念して再演します。時代背景を、原作にある貴族文化が頂点に達した18世紀のウィーンから、1912年に置き換えています。共通しているのは、劇中の登場人物たちも作曲・台本の名コンビも、それぞれが戦争を目前にした暗雲立ち込める時代の前夜に生きたことです。聡明な元帥夫人が、「時計を止めてしまいたい」と歌いますが、若い恋人との別れへの諦念や、時と共に容赦なく重ねる年齢だけでなく、世界全体の「時代」の移り変わりをも、彼女は感じ取っています。今回は、ウィーン出身の俊英指揮者アルミンクと、彼が音楽監督として大きな功績を残した新日本フィルハーモニー交響楽団が新国立劇場オペラに初登場となります。また、2007年の新国立劇場初演で気品と威厳を持ち合わせた元帥夫人を演じたカミッラ・ニールントが再登場、強力な歌手陣とともにあらゆるオペラの中でもひとときわ贅沢で美しい公演となることでしょう。

### 作品解説

ウィーン世紀末の劇作家を代表するホフマンスタールとR.シュトラウスによる俊作で、このコンビは『エレクトラ』『ナクソス島のアリアドネ』『アラベツラ』など6つのオペラを残しています。美しく気高い元帥夫人と若い愛人との甘いアバンチュール、刻々と経過する時間と衰え行く美貌への嘆息、やがて結ばれる若い2人への祝福。ウィーンの上流社会における情事や駆け引き、微妙な心理を描いたシュトラウスのこの最高傑作は、あらゆるオペラの中でもひとときわ贅沢で美しく、甘美な憂愁に満ちた作品として観る人の心を魅了しています。どこを取っても聴き所に溢れ、各幕のワルツや、この世のものとは思えない美しさのばらの贈呈シーンの二重唱(第2幕)、三者三様の思いをこめた女声三重唱〈私が誓ったことは〉などオペラの醍醐味を堪能できる作品です。

### あらすじ

20世紀初頭のウィーン。元帥夫人は夫の留守中に若き愛人の伯爵オクタヴィアンと愛し合っている。そこへ好色な田舎貴族オックス男爵が現れ、元帥夫人はオクタヴィアンを女装させ「小間使いのマリアンデル」と紹介して急場をしのぐ。オックス男爵は、新興貴族ファニーナルの娘ゾフィーと婚約し、オクタヴィアンに結納品として銀のばらを届けさせるが、若い2人は互いに一目惚れしてしまう。元帥夫人は若い恋人との別れの時を予感する。オックスはオクタヴィアンに決闘を挑まれ、軽い傷を負って大騒ぎ。さらに女装したオクタヴィアン“マリアンデル”からの偽りの恋文でまんまと騙され、結局ゾフィーとの婚約は破棄となる。元帥夫人も若い男女の恋を見抜いて、祝福しながらその場を立ち去る。



2007年公演より

R. シュトラウス

## ばらの騎士

Der Rosenkavalier / Richard Strauss

全3幕(ドイツ語上演/字幕付)

指揮……………	クリスティアン・アルミンク
Conductor	Christian Arming
演出……………	ジョナサン・ミラー
Production	Jonathan Miller
美術・衣裳……………	イザベラ・バイウォーター
Scenery and Costume Design	Isabella Bywater
照明……………	磯野 睦
Lighting Design	Isono Mutsumi
元帥夫人……………	カミッラ・ニールント
Die Feldmarschallin	Camilla Nylund
オックス男爵……………	フランツ・ハウラタ
Der Baron Ochs auf Lerchenau	Franz Hawlata
オクタヴィアン……………	ダニエラ・シンドラム
Octavian	Daniela Sindram
ファーニナル……………	ペーター・エーデルマン
Herr von Faninal	Peter Edelmann
ゾフィー……………	アニヤ=ニーナ・バーマン
Sophie	Anja-Nina Bahrmann
マリアンネ……………	黒澤明子
Marianne	Kurosawa Akiko
ヴァルツァッキ……………	高橋 淳
Valzacchi	Takahashi Jun
アンニーナ……………	加納悦子
Annina	Kano Etsuko
警部……………	長谷川 顯
Ein Polizeikommissar	Hasegawa Akira
元帥夫人の執事……………	小貫岩夫
Der Haushofmeister bei der Feldemarschallin	Onuki Iwao
ファーニナル家の執事……………	経種廉彦
Der Haushofmeister bei Faninal	Idane Yasuhiko
公証人……………	晴 雅彦
Ein Notar	Hare Masahiko
料理屋の主人……………	加茂下 稔
Ein Wirt	Kamoshita Minoru
テノール歌手……………	水口 聡
Ein Sänger	Mizuguchi Satoshi
帽子屋……………	國光ともこ
Eine Modistin	Kunimitsu Tomoko
動物商……………	土崎 讓
Ein Tierhändler	Tsuchizaki Joe
合唱……………	新国立劇場合唱団
Chorus	New National Theatre Chorus
管弦楽……………	新日本フィルハーモニー交響楽団
Orchestra	New Japan Philharmonic Orchestra

2011.4/7 (木) 6:00 4/16 (土) 2:00

4/10 (日) 2:00 4/19 (火) 6:00

4/13 (水) 2:00 4/22 (金) 2:00

オペラパレス

【チケット料金(税込)】

S: 23,100円・A: 18,900円・B: 12,600円・C: 7,350円・D: 4,200円

【前売開始】2010.12/18 (土)

# ばらの騎士

Der Rosenkavalier / Richard Strauss

指揮：クリスティアン・アルミンク

Conductor : Christian Arming

ウィーン生まれ。ウィーン国立音楽大学で学ぶ。1994年に本格的に指揮活動を開始、ベルリン・ドイツ交響楽団、フランクフルト放送交響楽団、ウィーン交響楽団、ザルツブルク・モーツァルテウム管弦楽団などに次々と客演、ザルツブルク音楽祭、プラハの春音楽祭にも度々招かれている。

チェコのヤナーチェク・フィルハーモニー管弦楽団首席指揮者、スイスのルツェルン歌劇場音楽監督およびルツェルン交響楽団首席指揮者を経て、2003年9月より新日本フィルハーモニー交響楽団音楽監督に就任。近年ではミュンヘン・フィルハーモニー管弦楽団、ドレスデン・シュターツカペレ、ウィーン交響楽団、カメラータ・ザルツブルク、シュトゥットガルト放送交響楽団、ハンブルク交響楽団、トゥールーズ・キャピトル管弦楽団、イタリア放送交響楽団、ミラノ・ヴェルディ交響楽団、ヴァンクーヴァー交響楽団、ならびにフランクフルト、ストラスブル、ヴェローナ、トリエステなどの歌劇場にも客演。新日本フィルハーモニー交響楽団音楽監督としては2011年までの任期延長を発表。常に意欲的なプログラミングは強い支持を集めている。06年第3回三菱信託音楽賞奨励賞受賞。新国立劇場初登場。



演出：ジョナサン・ミラー

Production : Jonathan Miller

ロンドン生まれ。医学博士、作家、TVプロデューサー、演劇・オペラ・映画の演出など幅広い分野で国際的に活躍。演劇演出家として、ロイヤル・シェイクスピア・カンパニーの『ヴェニスの商人』『じゃじゃ馬馴らし』や、1988年から90年まで芸術監督を務めたオールドヴィック劇場での『リア王』、80年からBBCが制作したシェイクスピアシリーズなど、シェイクスピア作品の演出で高い評価を得る。オペラ演出は74年のアレクサンダー・ゲアーの『Aeden Must Die』イギリス初演に始まり、その後もイングリッシュ・ナショナル・オペラなどで活躍、『ミカド』『リゴレット』『ねじの回転』『ばらの騎士』『カルメン』等で大成功を収める。また、ミラノ・スカラ座、メトロポリタン歌劇場、ベルリン州立歌劇場、ウィーン国立歌劇場、英国ロイヤルオペラ、ザルツブルク音楽祭など世界各地で活躍している。新国立劇場では『ファルスタッフ』、『ばらの騎士』を演出。

元帥夫人：カミッラ・ニールント

Die Feldmarschallin : Camilla Nylund

フィンランドのヴァーサ生まれ。1999年から2002年までザクセン州立歌劇場の専属歌手となる。その後ウィーン国立歌劇場、ミラノ・スカラ座、バイエルン州立歌劇場、チューリッヒ歌劇場、ザルツブルク音楽祭などで活躍。『フィガロの結婚』伯爵夫人、『フィデリオ』レオノーレ、『カルメン』ミカエラなどを歌っている。今後は、ザクセン州立歌劇場『ダフネ』、ウィーン国立歌劇場『サロメ』『ばらの騎士』、ベルリン・ドイツ・オペラ『リエンツィ』、パリ・オペラ座『サロメ』などに出演予定。11年に『タンホイザー』エリーザベトでバイロイト音楽祭にデビュー予定。12年には『ルサルカ』タイトルロールで英国ロイヤルオペラに、『ドン・カルロ』エリザベッタでネザーランド・オペラなどに初登場予定が続く。新国立劇場では07年『ばらの騎士』同役で初登場、喝采を浴びた。



# ばらの騎士

Der Rosenkavalier / Richard Strauss

## オックス男爵：フランツ・ハヴラタ

Der Baron Ochs auf Lerchenau : Franz Hawlata

ドイツのアイヒシュテット生まれ。1994年よりウィーン国立歌劇場と契約し、これまでに200公演以上に出演。メトロポリタン歌劇場、パリ・オペラ座、英国ロイヤルオペラ、ベルリン・ドイツ・オペラ、バイロイト音楽祭、ザルツブルク音楽祭などに出演。レパートリーは『ドン・ジョヴァンニ』レポレッコ、『魔笛』パパゲーノとザラストロ、『フィガロの結婚』フィガロ、『フィデリオ』ロッコ、『さまよえるオランダ人』ダーラント、『ヴォツェック』タイトルロール、『影のない女』バラク、『ばらの騎士』オックス男爵、『魔弾の射手』カスパールなど。2009/2010シーズンは、サンパウロで『ばらの騎士』などが予定されている。新国立劇場初登場。



## オクタヴィアン：ダニエラ・シンドラム

Octavian : Daniela Sindram

ドイツ出身。ベルリンとハンブルクで学ぶ。2003年から09年までバイエルン州立歌劇場の専属歌手。他にもウィーン国立歌劇場、パリ・オペラ座、英国ロイヤルオペラ、ウィーン・フォルクスオーパー、チューリッヒ歌劇場、バイロイト音楽祭などに出演している。『フィガロの結婚』ケルビーノ、『イドメネオ』イダマンテ、『皇帝ティトゥスの慈悲』セスト、『蝶々夫人』スズキ、『ばらの騎士』オクタヴィアン、『トリスタンとイゾルデ』ブランゲーネなど幅広いレパートリーを持つ。今後の予定としては、バイエルン州立歌劇場で『ナクソス島のアリアドネ』作曲家、『ばらの騎士』オクタヴィアン、『こうもり』オルロフスキー公爵、シアトルで『フィガロの結婚』ケルビーノなどがある。新国立劇場初登場。

## ファニナル：ペーター・エーデルマン

Herr von Faninal : Peter Edelmann

オーストリア生まれ。ウィーン音楽大学でオペラとリートを学ぶ。これまでにベルリン・ドイツ・オペラ、ハンブルク州立歌劇場、チューリッヒ歌劇場、スウェーデン王立歌劇場、モネ劇場、ウィーン・フォルクスオーパー、ヴェネツィアのフェニーチェ歌劇場、シアトル歌劇場、ワシントン・オペラ、ブエノスアイレスのコロン劇場などに出演。『魔笛』パパゲーノ、『コジ・ファン・トゥッテ』グリエルモ、『トリスタンとイゾルデ』メロート、『タンホイザー』ヴォルフラム、『エレクトラ』オレスト、『ばらの騎士』ファニナル、『メリー・ウィドウ』ダニロ、『こうもり』アイゼンシュタインとファルケなどをレパートリーとする。新国立劇場初登場。



## ゾフィー：アニヤ＝ニーナ・バーマン

Sophie : Anja-Nina Bahrmann

ドイツのジークブルク生まれ。デュッセルドルフ大学で学ぶ。学生時代からライン・ドイツ・オペラとエッセンのアールト劇場に出演。2006年から09年までリンツ州立歌劇場の専属歌手。2009/2010シーズンよりウィーン・フォルクスオーパーの専属に。『フィガロの結婚』スザンナ、『魔笛』パミーナ、『セビリアの理髪師』ロジーナ、『仮面舞踏会』オスカル、『ナクソス島のアリアドネ』ツェルビネッタ、『こうもり』アデーレなどを歌っている。09年12月に『月の世界』フラミア、2010/2011シーズンにはアン・デア・ウィーン劇場で『ルクリーシアの陵辱』に出演するほか、11年にはグラインドボーン音楽祭にデビューする予定。新国立劇場初登場。

# コジ・ファン・トゥツテ

## Così fan tutte

オペラパレス | 5 回公演 | 全2幕 (イタリア語上演/字幕付)

初 演: 1790 年1月26日 ウィーン・ブルク劇場

作 曲: ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト Wolfgang Amadeus Mozart (1756-1791)

台 本: ロレンツォ・ダ・ポンテ Lorenzo da Ponte

### 演目選定にあたって

副題を「恋人たちの学校」というこの作品、異性に対して感情のおもむくままにしていると痛い目にあいますから、理性をお忘れなくという“教育的寓話”とも呼べる作品として誕生しました。このモーツァルトの美しいアンサンブル・オペラには、6人のソリストがみな、同じレベルで優れたアンサンブルを聴かせることが求められます。指揮のパオロ・カリニャーニのアンサンブル作りはウィーン・フィルが絶賛するほどで、その圧倒的な素晴らしさは他の追随を許しません。新国立劇場に集まる粒ぞろいの歌手陣を、若手演出家でもっとも注目されているダミアノ・ミキエレットがどう動かすのか、注目の新制作公演にご期待ください。

### 作品解説

『ドン・ジョヴァンニ』『フィガロの結婚』とともにモーツァルトの「ダ・ポンテ三部作」として知られる最後の作品。「女はみんなこうしたもの」という意味のタイトルが表わすように、2組のカップルが互いに恋人を交換して相手の貞節ぶりを試し、最後はハッピーエンドとなる他愛のない恋愛喜劇。その中に、鋭い洞察による男女の感情の機微、人間の本質や愚かさを鋭く描き上げた傑作です。二重唱をはじめ三重唱、四重唱、五重唱と、揺れ動く感情の交錯を表現する均整のとれた優美なアンサンブルは、モーツァルト・オペラの極致といってもよい美しさです。第1幕の別れの五重唱〈毎日手紙をかいてね〉や美しい三重唱〈風よおだやかなれ〉、第2幕のアリア〈女が15歳にもなれば〉や四重唱〈お嬢様お手をどうぞ〉、二重唱〈あの胸に抱かれて〉など、心が洗われるような音楽が全編に渡って奏でられます。

### あらすじ

18世紀のナポリ。士官のグリエルモとフェルランドは、美しい姉妹フィオルディリージとドラベツァとそれぞれ婚約している。老哲学者ドン・アルフォンソにそそのかされ、ふたりは恋人の貞操観念をめぐって賭をすることになる。戦場に赴くことになったふりをして偽りの別れを演じた後、嘆き悲しむ姉妹を女中のデスピーーナがたしなめていると、アルバニア人に変装したグリエルモとフェルランドが登場し、あの手この手で姉妹を口説く。姉妹の心は次第に揺らぎ、ドラベツァが姉の婚約者グリエルモに、さらに「自分の貞操は岩のように固い」と言っていたフィオルディリージもフェルランドの口説きに陥落してしまう。新しい2組のカップルの結婚式が行われるところに、軍隊(婚約者たち)の帰還が告げられる。姉妹は恋人たちに死ぬ覚悟で罪を告白すると、ドン・アルフォンソが芝居の種明かしをし、婚約者たちはめでたく元の鞘におさまる。



W.A. モーツァルト

## コジ・ファン・トゥツテ

Così fan tutte / Wolfgang Amadeus Mozart

全2幕〈イタリア語上演／字幕付〉

指揮……………バオロ・カリニャーニ  
Conductor Paolo Carignani

演出……………ダミアーノ・ミキエレット  
Production Damiano Michieletto

美術・衣裳……………バオロ・ファンティン  
Scenery and Costume Design Paolo Fantin

フィオルディリージ……………アンナ・サムイル  
Fiordiligi Anna Samuil

ドラベッラ……………ダニエラ・ピーニ  
Dorabella Daniela Pini

デスピーーナ……………エレナ・ツアラゴワ  
Despina Elena Tsalagova

フェルランド……………ディミトリー・コルチャック  
Ferrando Dmitry Korchak

グリエルモ……………アドリアン・エレート  
Guglielmo Adrian Eröd

ドン・アルフォンソ……………ローマン・トレーケル  
Don Alfonso Roman Trekel

合唱……………新国立劇場合唱団  
Chorus New National Theatre Chorus

管弦楽……………東京フィルハーモニー交響楽団  
Orchestra Tokyo Philharmonic Orchestra

2011.5/29 (日) 2:00 6/8 (水) 2:00  
6/2 (木) 6:30 6/11 (土) 2:00  
6/5 (日) 2:00

オペラパレス

【チケット料金(税込)】

S : 23,100円・A : 18,900円・B : 12,600円・C : 7,350円・D : 4,200円

【前売開始】2011.2/12 (土)

# コジ・ファン・トゥッテ

Così fan tutte / Wolfgang Amadeus Mozart

指揮：パオロ・カリニャーニ

Conductor : Paolo Carignani

ミラノ生まれ。ジュゼッペ・ヴェルディ音楽院で作曲、オルガン、ピアノを学ぶ。これまでにイタリアの主要歌劇場のほか、ウィーン国立歌劇場、メトロポリタン歌劇場、バイエルン州立歌劇場、ベルリン・ドイツ・オペラ、英国ロイヤルオペラ、バリ・オペラ座、バルセロナのリセウ劇場、ネザーランド・オペラ、グラインドボーン音楽祭、ロッシェニ・オペラ・フェスティバルなどで各地で指揮をしている。1999年から2008年までフランクフルト・オペラの音楽総監督およびフランクフルト・ミュージアム・オーケストラの音楽監督。今後の予定としては、メトロポリタン歌劇場、ウィーン国立歌劇場、バイエルン州立歌劇場、ベルリン・ドイツ・オペラなどの出演が決まっている。新国立劇場初登場。



演出：ダミアーノ・ミキエレット

Production : Damiano Michieletto

ヴェネツィア生まれ。ミラノの「パオロ・グラッシ」ドラマティック・アーツ・スクールで演出を学び、ヴェネツィアのカ・フォスカリ大学で現代文学を学ぶ。初期の演出は、ミラノでストラヴィンスキーの『兵士の物語』、『真夏の夜の夢』、『動物の謝肉祭』、『ノアの洪水』など。ロッシェニ・オペラ・フェスティバル、フィレンツェのマッジョ・ムジカーレ、ジェノヴァのカルロ・フェリーチェ歌劇場、チューリッヒ歌劇場、ナポリのサン・カルロ劇場、ボローニャ歌劇場などで活躍。『セビリアの理髪師』『泥棒かささぎ』『ファルスタッフ』『アルジェのイタリア女』『ランメルモールのルチア』『後宮からの誘拐』などを演出している。新国立劇場初登場。

フィオルディリージ：アンナ・サムイル

Fiordiligi : Anna Samuil

モスクワ生まれ。モスクワ・チャイコフスキー音楽院でヴァイオリンと声楽を学ぶ。2004/2005シーズンよりベルリン州立歌劇場専属歌手に。他にもミラノ・スカラ座、バイエルン州立歌劇場、メトロポリタン歌劇場、リヨン国立歌劇場、ザルツブルク音楽祭、エディンバラ音楽祭などに出演。『椿姫』ヴィオレッタ、『リゴレット』ジルダ、『愛の妙薬』アディーナ、『ラ・ボエーム』ミミとムゼッタ、『ドン・ジョヴァンニ』ドンナ・アンナ、『コジ・ファン・トゥッテ』フィオルディリージ、『カルメン』ミカエラなどを歌っている。今後の予定としては、バイエルン州立歌劇場で『ドン・ジョヴァンニ』、ミラノ・スカラ座で『神々の黄昏』、ベルリン州立歌劇場で楽劇『ニーベルングの指環』『ローエングリン』『フィガロの結婚』『ラ・ボエーム』などがある。新国立劇場初登場。



ドラベッラ：ダニエラ・ピーニ

Dorabella : Daniela Pini

ボローニャ大学で歴史と音楽を学び、その後モデナでアンジェロ・ベルタッキ氏に師事。これまでにボローニャ歌劇場、バレルモのマッシモ歌劇場、ヴェローナ歌劇場、トリノ歌劇場、シュトゥットガルト市立劇場、フランクフルト、東京などで活躍。『アルジェのイタリア女』イザベラ、『チェネントラ』アンジェリーナ、『セビリアの理髪師』ロジーナ、『コジ・ファン・トゥッテ』ドラベッラ、『フィガロの結婚』ケルビーノ、『皇帝ティトゥスの慈悲』アンニオ、『蝶々夫人』スズキなどをレパートリーとする。今後の予定としては、フランクフルトで『オランダ・フリオーゾ』、ボローニャで『皇帝ティトゥスの慈悲』、シアトルで『チェネントラ』などがある。新国立劇場初登場。



# コジ・ファン・トゥッテ

Così fan tutte / Wolfgang Amadeus Mozart

デスピーナ: エレナ・ツアラゴワ

Despina : Elena Tsalagova

ロシア南部のウラジカフカス生まれ。サンクト・ペテルブルク音楽院で学ぶ。これまでにマリインスキー劇場、パリ・オペラ座、ザルツブルク音楽祭などに出演している。2008年11月よりバイエルン州立歌劇場と2年契約。『コジ・ファン・トゥッテ』デスピーナ、『フィガロの結婚』バルバリーナ、『ラ・ボエーム』ムゼッタ、『ファルススタッフ』ナンネッタ、『ウェルテル』ゾフィー、『利口な女狐』タイトルロール、『アルミーダ』ツェルミラなどを歌っている。名ソプラノ歌手イリアナ・コトルバスに師事し、レパートリーをさらに広げるべく研鑽を積んでいる。新国立劇場初登場。



フェルランド: デイミトリー・コルチャック

Ferrando : Dmitry Korchak

ロシア生まれ。これまでにミラノ・スカラ座、ベルリン州立歌劇場、英国ロイヤルオペラ、ローマ歌劇場、パレルモのマッシモ歌劇場、ナポリのサン・カルロ劇場、モネ劇場、パリ・オペラ座、チューリッヒ歌劇場、ロッシーニ・オペラ・フェスティバルなどに出演。『コジ・ファン・トゥッテ』フェルランド、『魔笛』タミーノ、『ドン・ジョヴァンニ』ドン・オッターヴィオ、『ファルススタッフ』フェントン、『セビリアの理髪師』アルマヴィーヴァ伯爵などを歌っている。今後の予定としては、アムステルダムとバイエルン州立歌劇場で『愛の妙薬』ネモリーノ、トゥールーズで『ドン・ジョヴァンニ』と『セビリアの理髪師』、ロサンゼルスで『セビリアの理髪師』、ハンブルク州立歌劇場で『連隊の娘』トニオなどがある。新国立劇場初登場。



グリエルモ: アドリアン・エレート

Guglielmo : Adrian Eröd

ウィーン生まれ。ウィーン音楽大学で学ぶ。2003/2004年よりウィーン国立歌劇場の専属歌手として活躍、ハンブルク州立歌劇場、リンツ州立歌劇場、エクサンプロヴァンス音楽祭などにも登場。09年にバイロイト音楽祭に初登場。『フィガロの結婚』タイトルロールと伯爵、『魔笛』パパゲーノ、『コジ・ファン・トゥッテ』グリエルモ、『ドン・ジョヴァンニ』タイトルロール、『チェネレントラ』ダンディーニ、『マノン・レスコー』レスコー、『マイスタージンガー』ベックメッサー、『ラインの黄金』ローゲなどをレパートリーとする。今後の予定としては、チューリッヒで『ニュルンベルクのマイスタージンガー』、ウィーン国立歌劇場でライマンの『メデア』世界初演、パリ・オペラ座、ドレスデン、ウィーン各地での『カブリッチョ』などがある。新国立劇場初登場。



ドン・アルフォンソ: ローマン・トレケル

Don Alfonso : Roman Trekel

ドレスデン近郊のピルナ生まれ。7歳のときよりヴァイオリン、リコーダー、オーボエのレッスンを受ける。1988年よりベルリン州立歌劇場のアンサンブルメンバー。『ナクソス島のアリアドネ』ハルレキン、『コジ・ファン・トゥッテ』グリエルモ、『魔笛』パパゲーノ、『タンホイザー』ヴォルフラムなどを歌っている。これまでにザクセン州立歌劇場、バイエルン州立歌劇場、英国ロイヤルオペラ、ザルツブルク音楽祭、フィレンツェのマジョ・ムジカーレのほか、96年以来バイロイト音楽祭に定期的に出演。2000年12月に宮廷歌手の栄誉に輝いた。10年にはミラノ・スカラ座に出演予定。新国立劇場には04年『神々の黄昏』グンターで独特の存在感を示して以来2度目の出演となる。



# 蝶々夫人

## Madama Butterfly

オペラパレス | 5回公演 | 全2幕 (イタリア語上演/字幕付)

初演: 1904年2月17日 ミラノ・スカラ座

作曲: ジャコモ・プッチーニ Giacomo Puccini (1858-1924)

台本: ルイージ・イルリカ/ジュゼッペ・ジャコーザ Luigi Illica / Giuseppe Giacosa

### 演目選定にあたって

2005年初演後、公演を重ねるたびに劇場を感動の渦に包む新国立劇場ならではの強いメッセージを持った人気プロダクションです。世界各地で様々な演出家が手がけている『蝶々夫人』、新国立劇場オペラは『夕鶴』に続く2作目の演出となった栗山民也は、死を以て愛を貫いた蝶々さんの世界を、舞台奥にアメリカのシンボルである星条旗がはためく空間で描いています。原作にみる西洋と東洋の主従関係が、今日の世界の構造と全く変わっていないことを暗示しています。ドラマチックな物語はイタリア・オペラの巨匠プッチーニの心に響く美しい音楽にあふれています。終始出ずっぱりのため“ソプラノ殺し”ともいわれる難役、蝶々夫人には、美しい舞台姿とドラマティックな表現力、完成された歌唱技術で観客を魅了している注目のクリスティアーネ・オポライスが新国立劇場初登場となります。

### 作品解説

イタリア・オペラの巨匠プッチーニの三大傑作の一つで、その音楽の美しさと、劇的内容は、オペラ初心者から熱心なファンまで世界中で愛されています。有名なアリア〈ある晴れた日に〉の他、「さくらさくら」「越後獅子」等日本の伝統音楽や民謡の旋律が作品中にちりばめられているため、日本人にとって他のオペラとはまた一味違った魅力を感じる人気作品です。原作はアメリカの作家J. L. ロングのベストセラー小説《蝶々夫人》。これを劇作家デヴィッド・ベラスコが戯曲化してアメリカで初演、大成功を収めました。丁度オペラ『トスカ』のロンドン初演で渡英していたプッチーニがこの芝居を観劇し、英語が分からなくても深く感動したことから、このオペラ化が実現しました。タイトルロールが日本人という設定であるため、三浦環や林康子、渡辺葉子、松本美和子といった日本人ソプラノ歌手の海外進出に大きく貢献した作品でもあります。数々の名作オペラを世に送り出したプッチーニは、自分のオペラを好まないといいながらも、「私のかわいい蝶々さんは大好きだ」と書き残しています。他にも『ラ・ボエーム』のミニヤ、『トゥーランドット』のリュー、『西部の娘』のミニーなども、プッチーニが愛したヒロインとされています。いずれもほとんどが薄幸の佳人であり、純情可憐であり、または気丈に与えられた人生を懸命に生き、愛のためには死をも恐れないタイプ的女性で、プッチーニはこのヒロインたちを愛し、自作の中で心に残る美しい音楽を与えて聴衆を魅了しています。

### あらすじ

時は明治の頃、長崎の海を望む丘の上で、アメリカ海軍士官のピンカートンは、結婚斡旋人ゴローの仲介で15歳の芸者、蝶々さんを身請けする。純情な蝶々さんに対してピンカートンは日本に滞在する間だけの軽い気持ちで結婚式を挙げ、長崎駐在のアメリカ領事シャープレスに不誠実だとたしなめられる。やがてピンカートンはアメリカに帰国、彼との間にできた3歳の息子と女中のズキは蝶々さんと3人で彼の帰りを待ちわびている。「ある晴れた日にピンカートンはきっと帰ってくる」とその日を夢見る蝶々さんは、ゴローが新しい結婚相手を薦めても耳を貸さない。一方、シャープレスはピンカートンがアメリカで正式に結婚したことを知るが、蝶々さんにその真実を語るができない。そして運命の時がやってくる。ピンカートンは、妻ケートをつれて長崎に降り立ち、思い出の丘の上の家を訪れるが、シャープレスから、蝶々さんが待ち続けていたことを聞き、居たたまれなくなってその場から走り去る。全てを悟った蝶々さんは、我が子をケートに渡す決断をすると、父の形見の短刀で自害して果てる。



2005年公演より

G. プッチーニ

## 蝶々夫人

Madama Butterfly / Giacomo Puccini

全2幕〈イタリア語上演／字幕付〉

指揮……………	イヴ・アベル
Conductor	Yves Abel
演出……………	栗山民也
Production	Kuriyama Tamiya
美術……………	島次郎
Scenery Design	Shima Jiro
衣裳……………	前田文子
Costume Design	Maeda Ayako
照明……………	勝柴次郎
Lighting Design	Katsushiba Jiro
蝶々夫人……………	クリスティーネ・オポライス
Madama Butterfly	Kristine Opolais
ピンカートン……………	ゾラン・トドロヴィッチ
Pinkerton	Zoran Todorovich
シャープレス……………	甲斐栄次郎
Sharpless	Kai Eijiro
スズキ……………	大林智子
Suzuki	Obayashi Tomoko
ゴロー……………	高橋 淳
Goro	Takahashi Jun
ボンゾ……………	島村武男
Lo zio Bonzo	Shimamura Takeo
ヤマドリ……………	松本 進
Il principe Yamadori	Matsumoto Susumu
ケート……………	山下牧子
Kate Pinkerton	Yamashita Makiko
合唱……………	新国立劇場合唱団
Chorus	New National Theatre Chorus
管弦楽……………	東京フィルハーモニー交響楽団
Orchestra	Tokyo Philharmonic Orchestra

2011.6/6 (月) 6:30 6/15 (水) 2:00  
 6/9 (木) 6:30 6/18 (土) 2:00  
 6/12 (日) 2:00  
 オペラパレス

【チケット料金(税込)】

S : 21,000円・A : 15,750円・B : 10,500円・C : 6,300円・D : 3,150円

【前売開始】2011.2/13 (日)

# 蝶々夫人

Madama Butterfly / Giacomo Puccini

指揮：イヴ・アベル

Conductor : Yves Abel

トロント出身。ウィーン国立歌劇場、ミラノ・スカラ座、ベルリン・ドイツ・オペラ、パリ・オペラ座、バルセロナのリセウ劇場、メトロポリタン歌劇場、グランドボーン音楽祭、ロッシェニ・オペラ・フェスティバルなどで指揮。『フィガロの結婚』『コジ・ファン・トゥッテ』『ドン・ジョヴァンニ』『セビリアの理髪師』『チェネレントラ』『愛の妙薬』『連隊の娘』『ドン・カルロ』『椿姫』『蝶々夫人』『ウェルテル』『カルメル派修道女との対話』『ペレアスとメリザンド』など定評のあるフランスものを中心に幅広いレパートリーを誇る。現在、ベルリン・ドイツ・オペラの常任客演指揮者。今後の予定として、ベルリン・ドイツ・オペラで『カルメル派修道女との対話』『椿姫』『低地』、英国ロイヤルオペラで『椿姫』、バイエルン州立歌劇場で『カプレーティとモンテッキ』などがある。2013年にはメトロポリタン歌劇場で『セビリアの理髪師』を振る予定。新国立劇場初登場。



演出：栗山民也

Production : Kuriyama Tamiya

早稲田大学文学部演劇科卒業。主な演出作品に、『ゴドーを待ちながら』『阿国』『獅子を飼う』『GHETTO / ゲットー』『海の沸点』『エヴァ、帰りのない旅』『太鼓たたいて笛ふいて』『マリー・アントワネット』『私はだれでしょう』『ロマンス』『かもめ』『闇に咲く花』『赤い城 黒い砂』『きらめく星座』『BLACK BIRD』『炎の人』『組曲虐殺』『海をゆく者』などがある。紀伊國屋演劇賞、読売演劇大賞最優秀演出家賞、芸術選奨文部大臣新人賞、毎日芸術賞第1回千田是也賞、第1回朝日舞台芸術賞などを受賞。新国立劇場では『今宵限りは……』『ブッダ』『キーン』『夜への長い旅路』『欲望という名の電車』『ピカドン・キジムナー』『夢の裂け目』『ワーニャおじさん』『櫻の園』『浮標』『夢の泪』『涙の谷、銀河の丘』『世阿彌』『胎内』『喪服の似合うエレクトラ』『箱根強羅ホテル』『母・胆っ玉とその子供たち』『夢の痂』『CLEANSKINS / きれいな肌』『氷屋来たる』『まぼろば』、オペラ『夕鶴』『蝶々夫人』を演出。新国立劇場演劇前芸術監督、現在、新国立劇場演劇研修所所長。

蝶々夫人：クリスティーネ・オポライス

Madama Butterfly : Kristine Opolais

ラトヴィア生まれ。2003年から07年までラトヴィア国立オペラの専属歌手。06年にベルリン州立歌劇場にデビュー。以来、ミラノ・スカラ座、ウィーン国立歌劇場、リヨン歌劇場、ザルツブルク音楽祭などに出演。『ラ・ボエーム』『ミミとムゼッタ』『蝶々夫人』タイトルロール、『トゥーランドット』リユー、『トスカ』タイトルロール、『椿姫』ヴィオレッタ、『スペードの女王』リーザ、『エウゲニ・オネーギン』タチヤーナ、『フィガロの結婚』伯爵夫人、『ラインの黄金』フライアなどを歌っている。今後の予定としては、メトロポリタン歌劇場、ネザーランド・オペラ、ミラノ・スカラ座などの出演が決まっている。新国立劇場初登場。



ピンカートン：ゾラン・トドロヴィッチ

Pinkerton : Zoran Todorovich

ベオグラード生まれ。これまでにウィーン国立歌劇場、バイエルン州立歌劇場、ベルリン州立歌劇場、ザクセン州立歌劇場、ベルリン・ドイツ・オペラ、モネ劇場、マドリッドのリアル劇場、チューリッヒ歌劇場、ブレゲンツ音楽祭、サンフランシスコ・オペラなどに出演。『ドン・カルロ』タイトルロール、『オテロ』タイトルロール、『リゴレット』マントヴァ公爵、『椿姫』アルフレード、『運命の力』ドン・アルヴァーロ、『蝶々夫人』ピンカートン、『トゥーランドット』カラフ、『ノルマ』ポリオーネ、『カルメン』ドン・ホセ、『カヴァレリア・ルスティカーナ』トゥリッドゥなどをレパートリーとする。新国立劇場には2000年『エウゲニ・オネーギン』、01年『蝶々夫人』、07年『カルメン』に出演している。

# 蝶々夫人

Madama Butterfly / Giacomo Puccini

シャープレス: 甲斐栄次郎

Sharpless : Kai Eijiro

熊本市生まれ。東京芸術大学卒業、同大学院修了。イタリアにおいて、ザンドナイ・コンクール第3位、ティト・スキーパ・コンクール第1位入賞。五島記念文化賞オペラ新人賞受賞。文化庁派遣芸術家在外研修員としてニューヨークへ、五島記念文化財団の助成によりボローニャへ留学。二期会『フィガロの結婚』タイトルロール、小澤征爾音楽塾特別演奏会『ドン・ジョヴァンニ』タイトルロール、小澤征爾オペラプロジェクト『ジャンニ・スキッキ』ベットで出演。2008年NHKニューイヤーオペラコンサート、N響『第九』に出演。03年9月ウィーン国立歌劇場デビュー。マルチェッロ、レスコー、シャープレス、バルコーレ、エンリーコなどの35役で260回以上の舞台に出演中。09年サヴォンリナ・オペラ・フェスティバル(フィンランド)『トゥーランドット』にピン役で出演。新国立劇場には04年『鳴神』鳴神上人役で初登場。二期会会員、ウィーン国立歌劇場専属ソリスト。



スズキ: 大林智子

Suzuki : Obayashi Tomoko

東京芸術大学卒業、同大学大学院修了。二期会オペラスタジオ第31期修了。1986年日伊声楽コンソルト入賞、二期会公演『ワルキューレ』のグリムゲルデ役でデビュー。その後『ヘンデルとグレーテル』『神々の黄昏』『蝶々夫人』などに出演。『戴冠ミサ』『第九』などのソリストとしても活躍し、NHK交響楽団定期公演『エレクトラ』などに出演している。新国立劇場には、2001年、09年『ラインの黄金』フロスヒルデ、02年、09年『ワルキューレ』ヴァルトラウテ、03年『神々の黄昏』フロスヒルデ、07年『ファルスタッフ』ページ夫人メグ、『蝶々夫人』スズキのほか、こどものためのオペラ劇場『ジークフリートの冒険』などに出演。10年『神々の黄昏』にもフロスヒルデで出演予定。二期会会員。



## 平成22年度公演

〈2演目8公演〉

2010.7

平成22年度

新国立劇場 高校生のためのオペラ鑑賞教室

### カルメン

Carmen | G. ビゼー

6回公演

2010.10

平成22年度

新国立劇場 高校生のためのオペラ鑑賞教室・関西公演

### 蝶々夫人

Madama Butterfly | G. プッチーニ

2回公演

〈新国立劇場 高校生のためのオペラ鑑賞教室〉

「新国立劇場 高校生のためのオペラ鑑賞教室」は、現代舞台芸術の一層の普及をめざす新国立劇場が、次の世代を担う青少年に優れた本物の芸術を鑑賞する機会として平成10年度より毎年開催しています。高校生に、一般のお客様と全く同じスタイルで名作オペラを全曲鑑賞していただくという新国立劇場独自のコンセプトが大変ご好評をいただいております。

新国立劇場では12回目の実施となる2009年(平成21年)7月の『トスカ』公演では、山梨県、栃木県を含む首都圏を中心とした高校生が集まりました。来場者の86.3%がオペラ鑑賞初体験、68.4%が作品のタイトルすら知らないというアンケート結果でしたが、幕が開くとぞわついた劇場内はたちまち静まりかえり、ドラマチックなストーリー展開と情熱的な音楽にあふれるプッチーニの名作を体感していました。

平成20年度からは新たに関西公演がスタート、2年連続で不朽の名作『蝶々夫人』を上演しました。1年間で東京公演、関西公演あわせて1万3千人を超える高校生が「本物の総合芸術」である新国立劇場のオペラ鑑賞教室でオペラデビューを果たしています。

# カルメン

## Carmen

オペラパレス | 6 回公演 | 全3幕 〈フランス語上演／字幕付〉

初演：1875 年 3 月 3 日 パリ・オペラ・コミック座

作曲：ジョルジュ・ビゼー Georges Bizet (1838-1875)

台本：アンリ・メイヤック／リュドヴィク・アレヴィ Henri Meilhac/Ludovic Halevy

### 演目選定にあたって

2007年初演のプロダクション。同年9月演劇芸術監督に就任した鶴山仁が新国立劇場オペラ初演出となった人気作品です。『カルメン』の演出について、「これは観る人の欲望が絵に描いたように実現するオペラです。ホセとカルメンの愛のピーク、“生(性)の究極が死に通ずる”クライマックスに至るまで、とにかく楽しみ満載のオペラですが、それらを描き切るために、フラメンコや闘牛士といったスペイン風俗など、視覚的な要素もふんだんに取り入れて、この絢爛たるドラマ、客席の皆様“しゃぶり尽くして”いただければと願っています」と語りました。

### 作品解説

〈ハバネラ(恋は野の鳥)〉〈闘牛士の歌〉等、誰もが一度は耳にしたことがある名曲で知られるフランス・オペラの代表作。ビゼーはこの1曲で19世紀フランス最大のオペラ作曲家としての地位を確立しました。P.メリメの小説をもとに、スペインの情熱を感じさせる魅力的な音楽と、男女の愛という普遍的な題材で展開するドラマは、世界中で人気オペラの筆頭に挙げられます。ビゼーが活躍した19世紀後半のパリは“オペラ花盛り”で、ビゼーに新作オペラを依頼したオペラ・コミック座は健全な社交場として賑わい、登場人物は王侯貴族や上流階級中心のオペラが上演されていました。そこへ、主人公のカルメンがジプシーの女工で、男を誘惑した挙げ句に殺されるこの作品は、当時のオペラ界の大スキャンダルと言ってよい程の反響を得ました。ビゼーの死後、友人のギローによってセリフの部分をレチタティーヴォに改められたウィーン初演版は大成功を収め、今なお世界中のオペラファンを魅了しています。2007年初演のプロダクションを再演。

### あらすじ

たばこ工場で働くカルメンは町の男達の人気者。ある日、自分に無関心な伍長のドン・ホセに興味を抱き、彼に赤い花を投げつけて誘惑する。彼にはミカエラという許婚がいたが、カルメンの魅力と誘惑に負け、女工同士の喧嘩がもとで逮捕されたカルメンを、護送中逃がしてしまう。この罪で牢に入れられたホセは、釈放されると真っ先に、酒場で待つカルメンのもとに走る。カルメンは歌と踊りで彼をもてなすが、帰営ラッパの音に兵舎へ帰ろうとするホセをなじり、自分への愛の証としてジプシーの密輸団の仲間になるよう迫る。ホセはカルメンの魅力に負けて密輸団の一員となるが、当のカルメンは既にホセに飽き、以前酒場でカルメンを見初めた花形闘牛士エスカミーリョにのりかえる。恋敵エスカミーリョに業を煮やすホセのもとに、ホセの母の危篤を伝えようとミカエラが現われる。ホセは、カルメンへの想いに後ろ髪を引かれつつもこの場はミカエラと山を下りる。闘牛の日、カルメンを取り戻したい一心のホセは、群衆でにぎわう闘牛場前の広場に行く。着飾ったカルメンは闘牛へ向かう恋人、エスカミーリョと愛の言葉を交わして彼を闘牛場へ送り出す。一人残ったカルメンの前に突然ホセが現われ、よりを戻そうと懇願するがもはや相手にされない。嫉妬に逆上したホセは、隠し持った短刀でカルメンの胸を突く。

G.ビゼー  
カルメン

Carmen / Georges Bizet

全3幕〈フランス語上演／字幕付〉

指揮……………	石坂 宏	
Conductor	Ishizaka Hiroshi	
演出……………	鵜山 仁	
Production	Uyama Hitoshi	
美術……………	島 次郎	
Scenery Design	Shima Jiro	
衣裳……………	緒方規矩子	
Costume Design	Ogata Kikuko	
照明……………	沢田祐二	
Lighting Design	Sawada Yuji	
カルメン……………	〈12日・14日・16日〉 森山京子	〈13日・15日・17日〉 谷口睦美
Carmen	Moriyama Kyoko	Taniguchi Mutsumi
ドン・ホセ……………	成田勝美	水口 聡
Don José	Narita Katsumi	Mizuguchi Satoshi
エスカミーリョ……………	成田博之	小林由樹
Escamillo	Narita Hiroyuki	Kobayashi Yoshiki
ミカエラ……………	安藤赴美子	増田のり子
Micaëla	Ando Fumiko	Masuda Noriko
スニガ……………	長谷川 顯	大塚博章
Zuniga	Hasegawa Akira	Otsuka Hiroaki
モラレス……………	青山 貴	清水宏樹
Moralès	Aoyama Takashi	Shimizu Hiroki
ダンカイロ……………	谷 友博	今尾 滋
Le Dancaïre	Tani Tomohiro	Imao Shigeru
レメンダード……………	大槻孝志	中嶋克彦
Le Remendado	Otsuki Takashi	Nakashima Katsuhiko
フラスキータ……………	平井香織	臼木あい
Frasquita	Hirai Kaori	Usuki Ai
メルセデス……………	山下牧子	清水華澄
Mercédès	Yamashita Makiko	Shimizu Kasumi
合唱……………	新国立劇場合唱団	
Chorus	New National Theatre Chorus	
管弦楽……………	東京フィルハーモニー交響楽団	
Orchestra	Tokyo Philharmonic Orchestra	

2010.7/12 (月) 1:00 7/15 (木) 1:00  
7/13 (火) 1:00 7/16 (金) 1:00  
7/14 (水) 1:00 7/17 (土) 1:00

オペラパレス

【チケット料金(税込)】

全席指定 2,100円(高校生のみ)

当日料金: 2,100円(高校生以下) / 4,200円(一般大人)

平成 22 年度 新国立劇場 高校生のためのオペラ鑑賞教室・関西公演

# 蝶々夫人

Madama Butterfly

尼崎市総合文化センター アルカニックホール | 2 回公演 | 全 2 幕 〈イタリア語上演／字幕付〉

初 演：1904 年 2 月 17 日 ミラノ・スカラ座

作 曲：ジャコモ・プッチーニ Giacomo Puccini (1858-1924)

台 本：ルイージ・イルリカ/ジュゼッペ・ジャコーザ Luigi Illica/Giuseppe Giacosa

## 演目選定にあたって

2005 年初演後、公演を重ねるたびに劇場を感動の渦に包む新国立劇場ならではの強いメッセージを持った人気プロダクションです。世界各地で様々な演出家が手がけている『蝶々夫人』、新国立劇場オペラは『夕鶴』に続く 2 作目の演出となった栗山民也は、死を以て愛を貫いた蝶々さんの世界を、舞台奥にアメリカのシンボルである星条旗がはためく空間で描いています。原作にみる西洋と東洋の主従関係が、今日の世界の構造と全く変わっていないことを暗示しています。ドラマチックな物語はイタリア・オペラの巨匠プッチーニの心に響く美しい音楽にあふれています。

## 作品解説

イタリア・オペラの巨匠プッチーニの三大傑作の一つで、その音楽の美しさと、劇的内容は、オペラ初心者から熱心なファンまで世界中で愛されています。有名なアリア〈ある晴れた日に〉の他、「さくらさくら」「越後獅子」等日本の伝統音楽や民謡の旋律が作品中にちりばめられているため、日本人にとって他のオペラとはまた一味違った魅力を感じる人気作品です。原作はアメリカの作家 J. L. ロングのベストセラー小説《蝶々夫人》。これを劇作家デヴィッド・ベラスコが戯曲化してアメリカで初演、大成功を収めました。丁度オペラ『トスカ』のロンドン初演で渡英していたプッチーニがこの芝居を観劇し、英語が分からなくても深く感動したことから、このオペラ化が実現しました。タイトルロールが日本人という設定であるため、三浦環や林康子、渡辺葉子、松本美和子といった日本人ソプラノ歌手の海外進出に大きく貢献した作品でもあります。数々の名作オペラを世に送り出したプッチーニは、自分のオペラを好まないといいながらも、「私のかわいい蝶々さんは大好きだ」と書き残しています。他にも『ラ・ボエーム』のミミや、『トゥーランドット』のリュエー、『西部の娘』のミニーなども、プッチーニが愛したヒロインとされています。いずれもほとんどが薄幸の佳人であり、純情可憐であり、または気丈に与えられた人生を懸命に生き、愛のためには死をも恐れないタイプの女性で、プッチーニはこのヒロインたちを愛し、自作の中で心に残る美しい音楽を与えて聴衆を魅了しています。

## あらすじ

時は明治の頃、長崎の海を望む丘の上で、アメリカ海軍士官のピンカートンは、結婚斡旋人ゴローの仲介で15歳の芸者、蝶々さんを身請けする。純情な蝶々さんに対してピンカートンは日本に滞在する間だけの軽い気持ちで結婚式を挙げ、長崎駐在のアメリカ領事シャープレスに不誠実だとたしなめられる。やがてピンカートンはアメリカに帰国、彼との間にできた3歳の息子と女中のスズキは蝶々さんと3人で彼の帰りを待ちわびている。「ある晴れた日にピンカートンはきっと帰ってくる」とその日を夢見る蝶々さんは、ゴローが新しい結婚相手を薦めても耳を貸さない。一方、シャープレスはピンカートンがアメリカで正式に結婚したことを知るが、蝶々さんにその真実を語ることができない。そして運命の時がやってくる。ピンカートンは、妻ケートをつれて長崎に降り立ち、思い出の丘の上の家を訪れるが、シャープレスから、蝶々さんが待ち続けていたことを聞き、居たたまれなくなってその場から走り去る。全てを悟った蝶々さんは、我が子をケートに渡す決断をすると、父の形見の短刀で自害して果てる。

G. プッチーニ  
蝶々夫人

Madama Butterfly / Giacomo Puccini

全2幕〈イタリア語上演／字幕付〉

指揮……………三澤洋史  
Conductor Misawa Hirohumi

演出……………栗山民也  
Production Kuriyama Tamiya

美術……………島次郎  
Scenery Design Shima Jiro

衣裳……………前田文子  
Costume Design Maeda Ayako

照明……………勝柴次朗  
Lighting Design Katsushiba Jiro

	〈27日〉	〈28日〉
蝶々夫人……………	岡崎他加子	並河寿美
Madama Butterfly	Okazaki Takako	Namikawa Hisami

ピンカートン……………	村上敏明	樋口達哉
Pinkerton	Murakami Toshiaki	Higuchi Tatsuya

シャープレス……………	折江忠道	成田博之
Sharpless	Orie Tadamichi	Narita Hiroyuki

スズキ……………	大林智子	山下牧子
Suzuki	Obayashi Tomoko	Yamashita Makiko

ゴロー……………	高橋 淳	内山信吾
Goro	Takahashi Jun	Uchiyama Shingo

	〈両日〉
ボンゾ……………	島村武男
Lo zio Bonzo	Shimamura Takeo

ヤマドリ……………	松本 進
Il principe Yamadori	Matsumoto Susumu

ほか

合唱……………新国立劇場合唱団  
Chorus New National Theatre Chorus

管弦楽……………東京フィルハーモニー交響楽団  
Orchestra Tokyo Philharmonic Orchestra

2010.10/27 (水) 2:00

10/28 (木) 2:00

尼崎市総合文化センター アルカイクホール

【チケット料金(税込)】

全席指定 2,100円(高校生のみ)

当日料金: 2,100円(高校生以下) / 4,200円(一般大人)

# OPERA

## 公演一覧

開場記念公演～2009/2010シーズン

■ =レパートリー作品

シーズン	公演	作曲	指揮	演出	公演初日
開場記念公演	建・TAKERU	團 伊玖磨	星出 豊	西澤敬一	97.10/10
	ローエングリン	R.ワーグナー	若杉 弘	ヴォルフガング・ワーグナー	97.11/22
	アイーダ	G.ヴェルディ	ガルシア・ナバロ	フランコ・ゼッフィレッリ	98.1/15
1998/ 1999	蝶々夫人	G.プッチーニ	菊池彦典	栗山昌良	98.4/8
	魔笛	W.A.モーツァルト	大野和士	ミハエル・ハンベ	98.5/6
	ナブッコ	G.ヴェルディ	アントン・グアダーニョ	アントネッロ・マダウ＝ディアツ	98.6/18
	アラベッラ	R.シュトラウス	若杉 弘	鈴木敬介	98.9/19
	セビリアの理髪師	G.ロッシニ	マウリツィオ・ベニーニ	ピエールフランチェスコ・マエストリーニ	98.10/9
	ヘンゼルとグレーテル	E.フンパーディンク	佐藤功太郎	西澤敬一	98.11/27
	カルメン	G.ビゼー	グスタフ・クーン	グスタフ・クーン	99.1/19
	天守物語	水野修孝	星出 豊	栗山昌良	99.2/13
	こうもり	J.シュトラウスII世	北原幸男	寺崎裕則	99.4/21
罪と罰	原 嘉壽子	外山雄三	加藤 直	99.6/18	
1999/ 2000	仮面舞踏会	G.ヴェルディ	パオロ・オルミ	アルベルト・ファッシーニ	99.9/21
	マノン・レスコー	G.プッチーニ	菊池彦典	ピエールフランチェスコ・マエストリーニ	99.11/6
	蝶々夫人	G.プッチーニ	ウジェコスラフ・シュテイ	栗山昌良	99.12/18
	ドン・ジョヴァンニ	W.A.モーツァルト	アッシャー・フィッシュ	ロベルト・デ・シモーネ	00.1/16
	セビリアの理髪師	G.ロッシニ	アントニオ・ピロリ	栗國 淳/ピエールフランチェスコ・マエストリーニ	00.2/20
	沈黙	松村禎三	星出 豊	中村敬一	00.3/16
	サロメ	R.シュトラウス	若杉 弘	アウグスト・エヴァーディング	00.4/11
	ドン・キホット	J.E.F.マスネ	アラン・ギンガル	ピエロ・ファッジョーニ	00.5/7
リゴレット	G.ヴェルディ	レナート・バルンボ	アルベルト・ファッシーニ	00.6/11	
2000/ 2001	トスカ	G.プッチーニ	マルチェッロ・ヴィオッティ	アントネッロ・マダウ＝ディアツ	00.9/21
	魔笛	W.A.モーツァルト	村中大祐	ミハエル・ハンベ	00.10/10
	エウゲニ・オネーギン	P.チャイコフスキー	ステファノ・ランザーニ	ボリス・ボクロフスキー/ヴェラ・カルパチョフ	00.10/30
	青ひげ公の城	B.バルトーク	飯守泰次郎	ゲッツ・フリードリヒ	00.11/24
	夕鶴	團 伊玖磨	増田宏昭	栗山民也	00.12/2
	イル・トロヴァトーレ	G.ヴェルディ	ダニエル・オーレン	アルベルト・ファッシーニ	01.1/15
	リゴレット	G.ヴェルディ	アントニオ・ピロリ	アルベルト・ファッシーニ	01.2/5
	ラインの黄金	R.ワーグナー	準・メルクル	キース・ウォーナー	01.3/30
	仮面舞踏会	G.ヴェルディ	菊池彦典	アルベルト・ファッシーニ	01.5/13
	蝶々夫人	G.プッチーニ	アントン・グアダーニョ	栗山昌良	01.6/7
マノン	J.E.F.マスネ	アラン・ギンガル	ジャン＝ピエール・ボネル	01.7/5	
2001/ 2002	トゥーランドット	G.プッチーニ	菊池彦典	ウーゴ・デ・アナ	01.9/15
	ナブッコ	G.ヴェルディ	パオロ・オルミ	アントネッロ・マダウ＝ディアツ	01.11/1
	ドン・ジョヴァンニ	W.A.モーツァルト	ポール・コネリー	ロベルト・デ・シモーネ	01.11/16
	ドン・カルロ	G.ヴェルディ	ダニエレ・カッレガーリ	アルベルト・ファッシーニ	01.12/6
	ヘンゼルとグレーテル	E.フンパーディンク	三澤洋史	西澤敬一	02.1/10
	忠臣蔵	三枝成彰	大友直人	平尾力哉	02.1/25
	ウェルテル	J.E.F.マスネ	アラン・ギンガル	アルベルト・ファッシーニ	02.2/21
	ワルキューレ	R.ワーグナー	準・メルクル	キース・ウォーナー	02.3/26
	サロメ	R.シュトラウス	児玉 宏	アウグスト・エヴァーディング	02.5/1
	トスカ	G.プッチーニ	アルベルト・ヴェロネージ	アントネッロ・マダウ＝ディアツ	02.5/2
	カルメン	G.ビゼー	ジャック・デラコート	マウリツィオ・ディ・マッティエーア	02.6/7
2002/ 2003	椿姫	G.ヴェルディ	ブルーノ・カンパネッラ	ルーカ・ロンコーニ	02.9/5
	ルチア	G.ドニゼッティ	パオロ・オルミ	ヴィンチェンツォ・グリゾストミ・トラヴァーリニ	02.10/11
	セビリアの理髪師	G.ロッシニ	アントニオ・ピロリ	栗國 淳	02.10/31
	イル・トロヴァトーレ	G.ヴェルディ	ジュリアーノ・カレツラ	アルベルト・ファッシーニ	02.11/21
	ナクソス島のアリアドネ	R.シュトラウス	児玉 宏	ハンス＝ペーター・レーマン	02.12/12
	光	一柳 慧	若杉 弘	松本重孝	03.1/17
	アラベッラ	R.シュトラウス	若杉 弘	鈴木敬介	03.1/31
	ジークフリート	R.ワーグナー	準・メルクル	キース・ウォーナー	03.3/27
	ラ・ボエーム	G.プッチーニ	アントニオ・ピロリ	栗國 淳	03.4/19
	オテロ	G.ヴェルディ	菊池彦典	エライジャ・モシンスキー	03.6/10
	アイーダ	G.ヴェルディ	ダニエル・オーレン	フランコ・ゼッフィレッリ	03.9/14



シーズン	公演	作曲	指揮	演出	公演初日
2003/ 2004	フィガロの結婚	W.A. モーツァルト	ウルフ・シルマー	アンドレアス・ホモキ	03.10/10
	トスカ	G. プッチーニ	ジェラール・コルステン	アントネッロ・マダウ＝ディアツ	03.11/9
	ホフマン物語	G. オッフエンバック	阪 哲朗	フィリップ・アルロー	03.11/28
	鳴神／俊寛	間宮芳生／清水 修	秋山和慶	市川團十郎	04.1/30
	スペインの燦き	M. ラヴェル	マルク・ピオレ	ニコラ・ムシン	04.2/18
	サロメ	R. シュトラウス	フリードリヒ・ハイダー	アウグスト・エファーディング	04.2/27
	神々の黄昏	R. ワーグナー	準・メルクル	キース・ウォーナー	04.3/26
	マクベス	G. ヴェルディ	ミゲル・ゴメス＝マルティネス	野田秀樹	04.5/13
	ファルススタッフ	G. ヴェルディ	ダン・エッティンガー	ジョナサン・ミラー	04.6/25
カルメン	G. ビゼー	沼尻竜典	マウリツィオ・ディ・マッティアー	04.6/28	
2004/ 2005	カヴァレリア・ルスティカーナ/道化師	P. マスカーニ/R. レオンカヴァッロ	阪 哲朗	グリシャ・アサガロフ	04.9/9
	ラ・ボエーム	G. プッチーニ	井上道義	栗國 淳	04.9/25
	エレクトラ	R. シュトラウス	ウルフ・シルマー	ハンス＝ペーター・レーマン	04.11/11
	椿姫	G. ヴェルディ	若杉 弘	ルーカ・ロンコーニ	04.11/22
	マクベス	G. ヴェルディ	リッカルド・フリッツァ	野田秀樹	05.1/17
	ルル	A. ベルク	シュテファン・アントン・レック	デヴィッド・パウントニー	05.2/8
	おさんー「心中天網島」より	久保摩耶子	神田慶一	栗國 淳	05.2/25
	コジ・ファン・トゥッテ	W.A. モーツァルト	ダン・エッティンガー	コルネリア・レブシュレーガー	05.3/21
	フィガロの結婚	W.A. モーツァルト	平井秀明	アンドレアス・ホモキ	05.4/7
	フィデリオ	L.v. ベートーヴェン	ミヒャエル・ボーダー	マルコ・アルトゥーロ・マレッシ	05.5/28
	蝶々夫人	G. プッチーニ	レナート・パルンボ	栗山民也	05.6/24
2005/ 2006	ニュルンベルクのマイスター・ジンガー	R. ワーグナー	シュテファン・アントン・レック	ベルント・ヴァイクル	05.9/14
	セビリアの理髪師	G. ロッシーニ	ニール・カバレッティ	ヨーゼフ・E. ケップリンガー	05.10/14
	アンドレア・シェニエ	U. ジョルダノ	ミゲル・ゴメス＝マルティネス	フィリップ・アルロー	05.11/20
	ホフマン物語	J. オッフエンバック	阪 哲朗	フィリップ・アルロー	05.11/27
	魔笛	W.A. モーツァルト	服部譲二	ミヒャエル・ハンペ	06.1/21
	コジ・ファン・トゥッテ	W.A. モーツァルト	オラフ・ヘンツォルト	コルネリア・レブシュレーガー	06.2/4
	愛怨	三木 稔	大友直人	恵川智美	06.2/17
	運命の力	G. ヴェルディ	井上道義	エミリオ・サージ	06.3/15
	カヴァレリア・ルスティカーナ/道化師	P. マスカーニ/R. レオンカヴァッロ	ファビオ・ルイージ	グリシャ・アサガロフ	06.4/5
	こうもり	J. シュトラウスII世	ヨハネス・ヴァルトナー	ハインツ・ツェドニク	06.6/14
	ドン・カルロ	G. ヴェルディ	ミゲル・ゴメス＝マルティネス	マルコ・アルトゥーロ・マレッシ	06.9/7
2006/ 2007	イドメネオ	W.A. モーツァルト	ダン・エッティンガー	グリシャ・アサガロフ	06.10/20
	フィデリオ	L.v. ベートーヴェン	コルネリウス・マイスター	マルコ・アルトゥーロ・マレッシ	06.11/30
	セビリアの理髪師	G. ロッシーニ	ミケーレ・カルツリ	ヨーゼフ・E. ケップリンガー	06.12/1
	さまよえるオランダ人	R. ワーグナー	ミヒャエル・ボーダー	マティアス・フォン・シュテークマン	07.2/25
	運命の力	G. ヴェルディ	マウリツィオ・バルバチャーニ	エミリオ・サージ	07.3/15
	蝶々夫人	G. プッチーニ	若杉 弘	栗山民也	07.3/22
	西部の娘	G. プッチーニ	ウルフ・シルマー	アンドレアス・ホモキ	07.4/15
	ばらの騎士	R. シュトラウス	ペーター・シュナイダー	ジョナサン・ミラー	07.6/6
	ファルススタッフ	G. ヴェルディ	ダン・エッティンガー	ジョナサン・ミラー	07.6/13
	タンホイザーと ヴァルトブルクの歌合戦	R. ワーグナー	フィリップ・オーギャン	ハンス＝ペーター・レーマン	07.10/8
	フィガロの結婚	W.A. モーツァルト	沼尻竜典	アンドレアス・ホモキ	07.10/18
カルメン	G. ビゼー	ジャック・デラコート	鶴山 仁	07.11/25	
ラ・ボエーム	G. プッチーニ	マウリツィオ・バルバチャーニ	栗國 淳	08.1/20	
サロメ	R. シュトラウス	トーマス・レスナー	アウグスト・エファーディング	08.2/3	
黒船 一夜明け	山田耕祐	若杉 弘	栗山昌良	08.2/22	
アイーダ	G. ヴェルディ	リッカルド・フリッツァ	フランコ・ゼッフィレッリ	08.3/10	
魔弾の射手	C.M.v. ウェーバー	ダン・エッティンガー	マティアス・フォン・シュテークマン	08.4/10	
軍人たち	B.A. ツインマーマン	若杉 弘	ヴィリー・デッカー	08.5/5	
椿姫	G. ヴェルディ	上岡敏之	ルーカ・ロンコーニ	08.6/5	

シーズン	公演	作曲	指揮	演出	公演初日
2008/ 2009	トゥーランドット	G. プッチーニ	アントネッロ・アッレマンディ	ヘニング・ブロックハウス	08.10/1
	リゴレット	G. ヴェルディ	ダニエレ・カッレガーリ	アルベルト・ファッシーニ	08.10/25
	ドン・ジョヴァンニ	W.A. モーツァルト	コンスタンティン・トリンクス	グリシャ・アサガロフ	08.12/5
	蝶々夫人	G. プッチーニ	カルロ・モンタナーロ	栗山民也	09.1/12
	こゝもり	J. シュトラウスII 世	アレクサンダー・ジョエル	ハインツ・ツェドニク	09.1/27
	ラインの黄金	R. ワグナー	ダン・エッティンガー	キース・ウォーナー	09.3/7
	ワルキューレ	R. ワグナー	ダン・エッティンガー	キース・ウォーナー	09.4/3
	ムツェンスク郡のマクベス夫人	D. ショスタコーヴィチ	ミハイル・シンケヴィチ	リチャード・ジョーンズ	09.5/1
	チェネントラ	G. ロッシーニ	デイヴィッド・サイラス	ジャン=ピエール・ボネル	09.6/7
	修禅寺物語	清水 脩	外山雄三	坂田藤十郎	09.6/25
2009/ 2010	オテロ	G. ヴェルディ	リッカルド・フリッツァ	マリオ・マルトーネ	09.9/20
	魔笛	W.A. モーツァルト	アルフレート・エシュヴェ	ミハエル・ハンベ	09.10/29
	ヴォツェック	A. ベルク	ハルトムート・ヘンヒェン	アンドレアス・クリーゲンブルク	09.11/18
	トスカ	G. プッチーニ	フレデリック・シャスラン	アントネッロ・マダウ=ディアツ	09.12/2
	ジークフリート	R. ワグナー	ダン・エッティンガー	キース・ウォーナー	10.2/11
	神々の黄昏	R. ワグナー	ダン・エッティンガー	キース・ウォーナー	10.3/18
	愛の妙薬	G. ドニゼッティ	パオロ・オルミ	チェーザレ・リエヴィ	10.4/15
	影のない女	R. シュトラウス	エーリッヒ・ヴェヒター	ドニ・クリエフ	10.5/20
	カルメン	G. ビゼー	マウリツィオ・バルバチーニ	鶴山 仁	10.6/10
鹿鳴館	池辺晋一郎	未定	鶴山 仁	10.6/24	